

令和元年度  
第1回 葛飾区区民モニター  
アンケート調査

報 告 書

－「葛飾区のまちのイメージについて」－

－「防災について」－

－「多文化共生社会の推進について」－

令和元年 1 1 月



# 目 次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査のテーマ	1
3. 調査の設計	1
4. 調査機関	1
5. 報告書の表記について	1
II 回答者の属性	2
III 調査結果の詳細	5
1. 葛飾区のまちのイメージについて	5
(1) 「現在の葛飾区」のイメージ	5
(2) 「20年後30年後の葛飾区がどんなまちであってほしいか」	7
(3) 「葛飾区への転居を勧める場合にどんなまちであってほしいか」	9
2. 防災について	11
(1) 家庭内での備蓄品	11
(2) 家庭内での備蓄量	13
(3) 備蓄していない方の「必要な備蓄量の認知」「備蓄していない理由」	14
(4) 「ローリングストック」の認知	15
(5) 区に備蓄を望むもの（自由記述）	16
(6) 災害時に心配なこと	23
(7) 家庭での地震対策	25
(8) 地震発災時の避難方法の認知	26
(9) 水害の避難方法の認知	28
(10) 災害情報の入手方法	30
(11) 防災情報の閲覧経験	32
(12) 災害に関することで特に知りたいこと	33
(13) 防災訓練の参加経験	34
(14) 希望する訓練内容	36
3. 多文化共生社会の推進について	37
(1) 外国人との交流機会	37
(2) 日常的に交流している外国人	38
(3) 外国人と交流したい理由	39
(4) 地域コミュニティやグループへの外国人の参加状況	41

(5) 外国人に参加してほしい理由	46
(6) 外国人の参加を望んでいない理由	47
(7) 外国人が参加していない理由	48
(8) 地域に外国人が増えるメリット	49
(9) 「やさしい日本語」の取組について	51
(10) 外国人に努力してほしいこと	53
(11) 日本人が努力・工夫していくべきこと	55
(12) 葛飾区の多文化共生社会の実感度	57
(13) 外国人に有効な情報提供方法	58

## I 調査概要

### 1. 調査の目的

区が実施している施策や区が発信している情報等について、公募で募った「区民モニター」から、適時かつ具体的なご意見を収集することにより、区政への活用を図るもの。

### 2. 調査のテーマ

- (1) 葛飾区のまちのイメージについて
- (2) 防災について
- (3) 多文化共生社会の推進について

### 3. 調査の設計

- (1) 調査対象 区民モニター200名
- (2) 調査方法 郵送での調査の配付・回収（インターネット回答併用）
- (3) 調査期間 令和元年8月19日（月）～9月6日（金）
- (4) 有効回収数 184名（郵送回収：129名、インターネット回答：55人）

### 4. 調査機関

株式会社マーケティング・リサーチ・サービス

### 5. 報告書の表記について

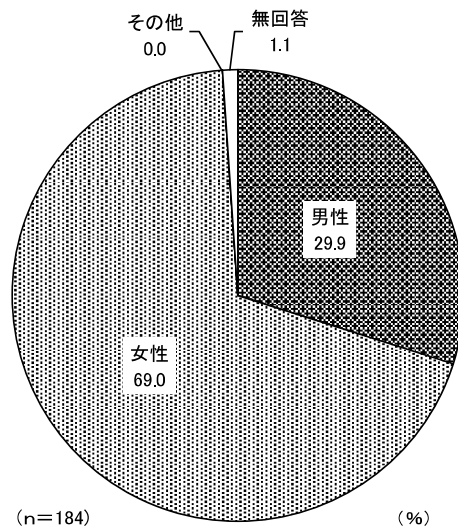
- (1) 比率は全て百分率で表記し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのため、四捨五入によって生じる誤差により、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) “n”は各設問の回答数を示している。比率はnを母数とし、算出している。
- (3) 複数回答の設問では、1人の回答数が複数の回答を選択可能なため、各選択肢における回答数の合計が100%を超過している。
- (4) 年齢層・年代別の20代には、18歳・19歳を含んでいる。

※この報告書は、区公式ホームページ（<http://www.city.katsushika.lg.jp/>）に掲載している。

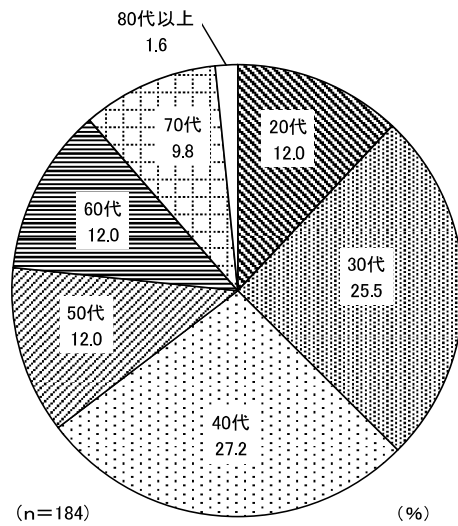
（トップページ>区政情報>統計・調査>調査）

## II 回答者の属性

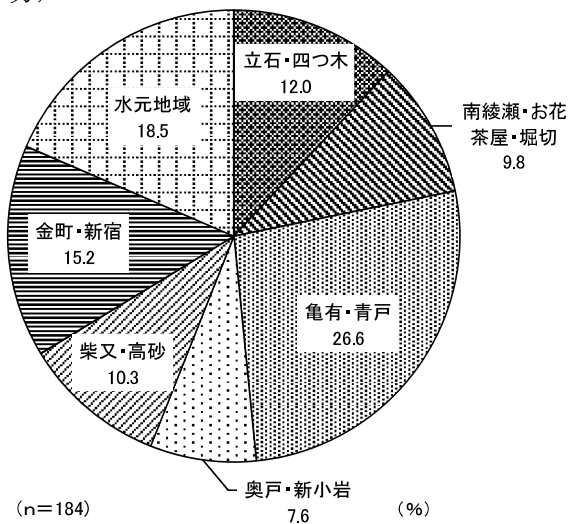
### (1) 性別



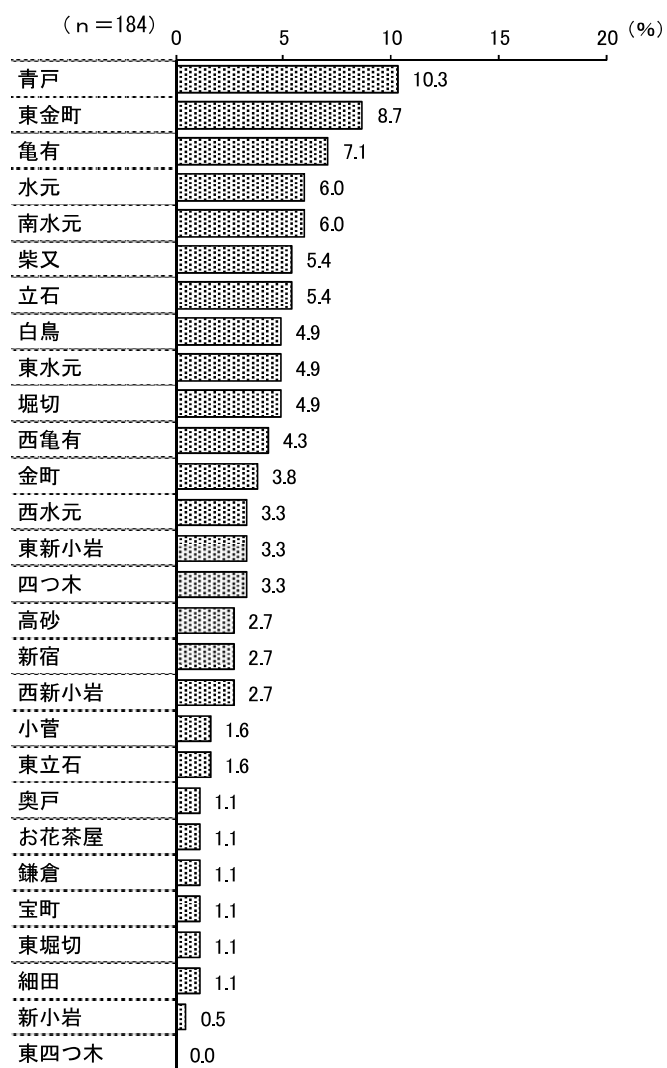
### (2) 年齢層



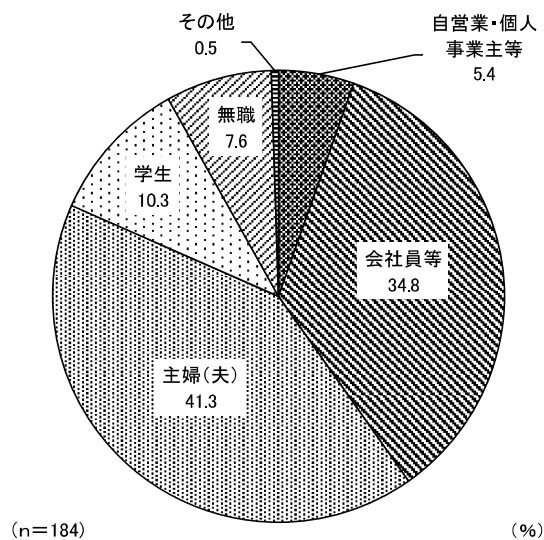
### (3) 居住地域 (7区分)



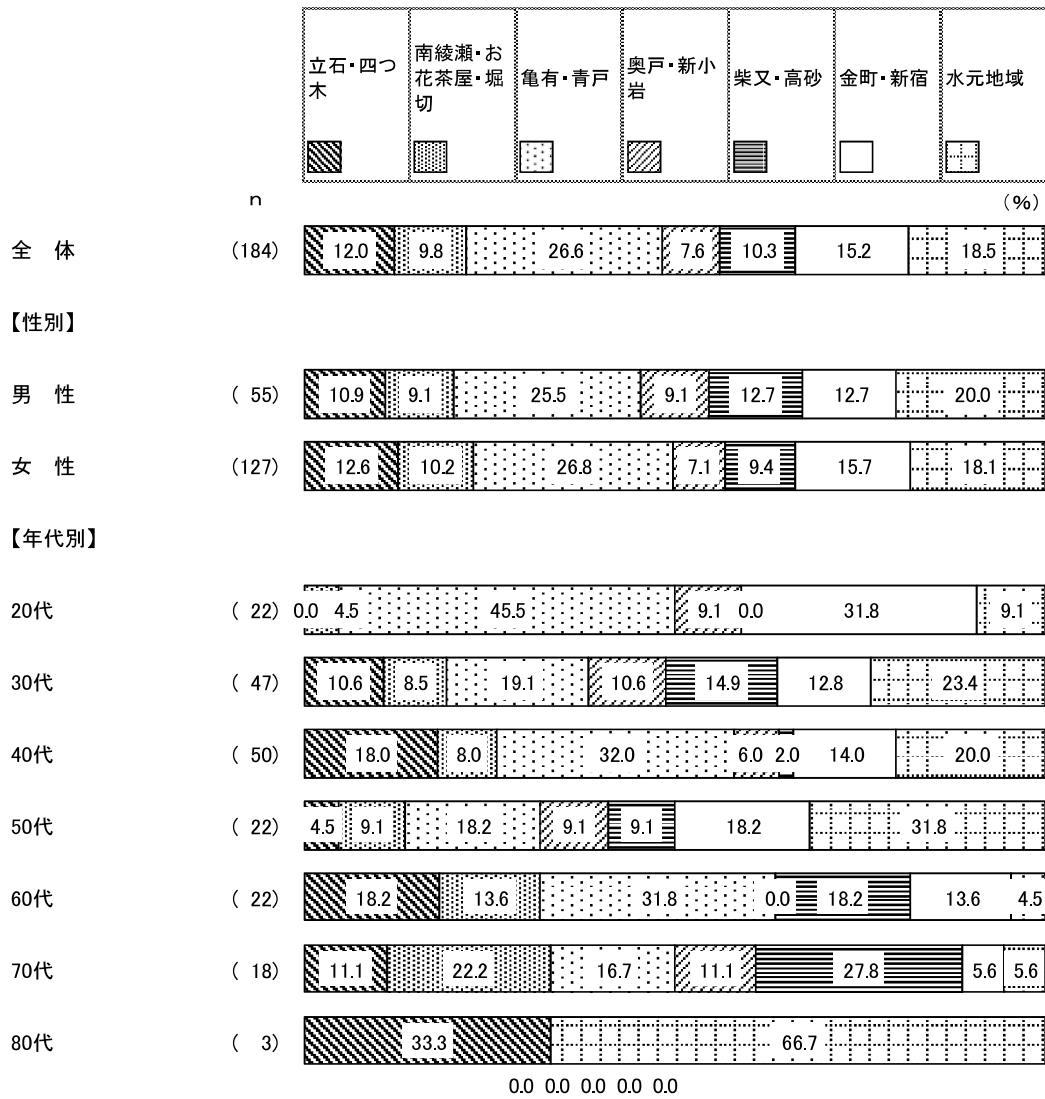
(4) 居住地域 (28区分)



(5) 職業



(6) 居住地域別（7区分）×性別・×年代別



### Ⅲ 調査結果の詳細

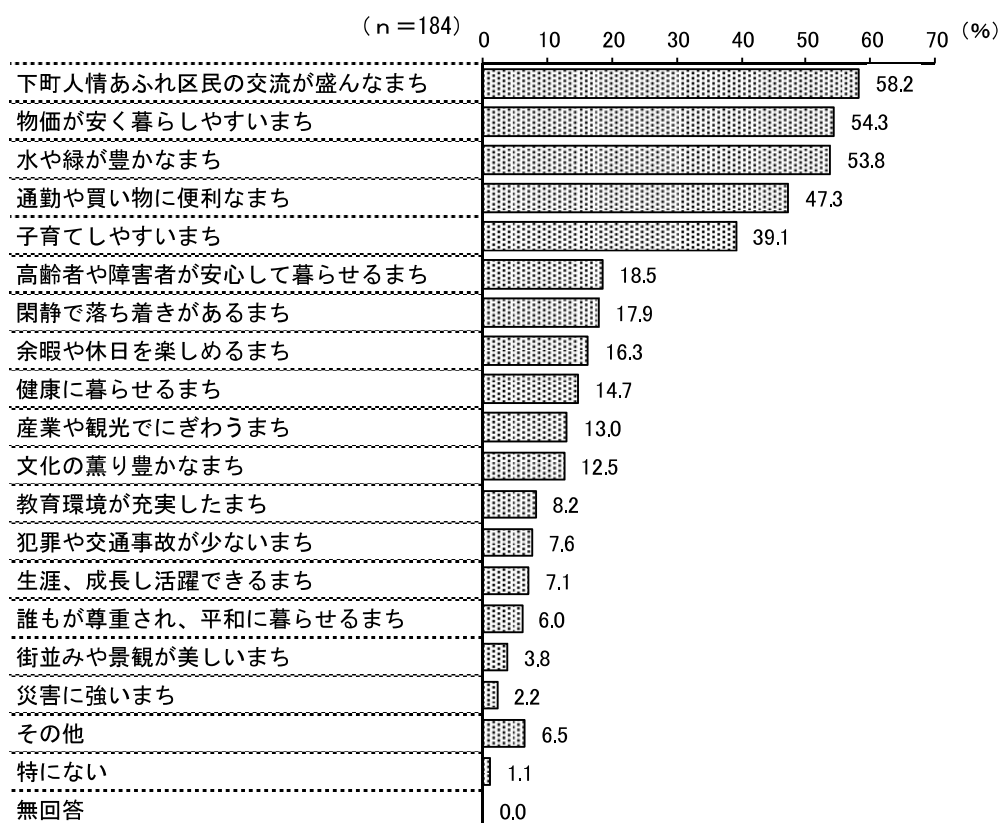
#### 1. 葛飾区のまちのイメージについて

##### (1) 「現在の葛飾区」のイメージ

**問1** (1)～(3)の質問について、＜選択肢＞からそれぞれ選んでください。  
(1) あなたにとって「現在の葛飾区」はどんなまちだと思いますか。当てはまるものを5つまで選んでください。

「現在の葛飾区」のイメージとしては、「下町人情あふれ区民の交流が盛んなまち」が58.2%で最も高く、次いで「物価が安く暮らしやすいまち」が54.3%、「水や緑が豊かなまち」が53.8%、「通勤や買い物に便利なまち」が47.3%、「子育てしやすいまち」が39.1%となっている。

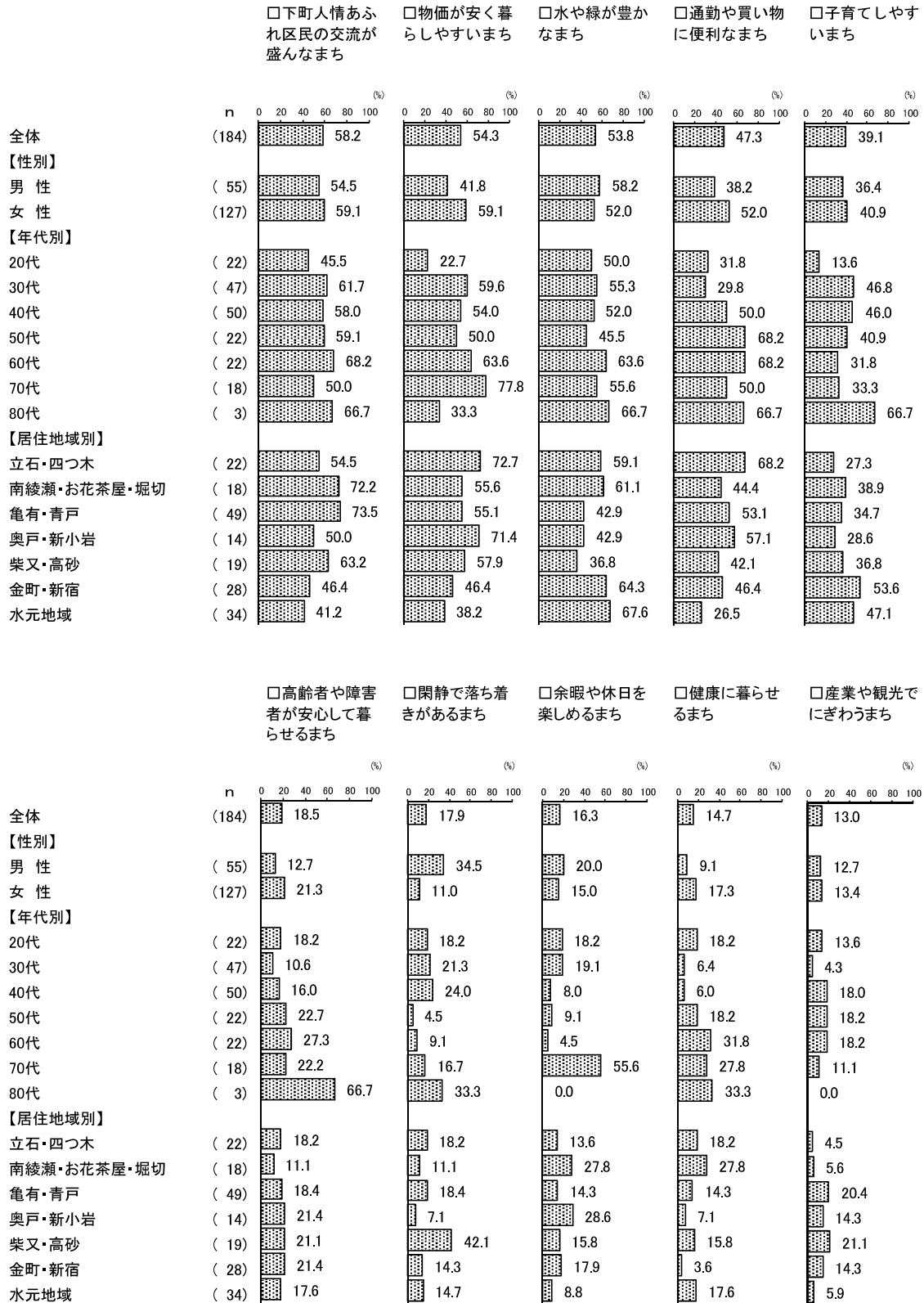
図表-1 「現在の葛飾区」のイメージ（全体）





属性別でみると、「物価が安く暮らしやすいまち」は、女性で59.1%と高く、年代別では70代で77.8%と最も高くなっている。

図表-2 「現在の葛飾区」のイメージ  
(性別・年代別・居住地域別—上位10項目)

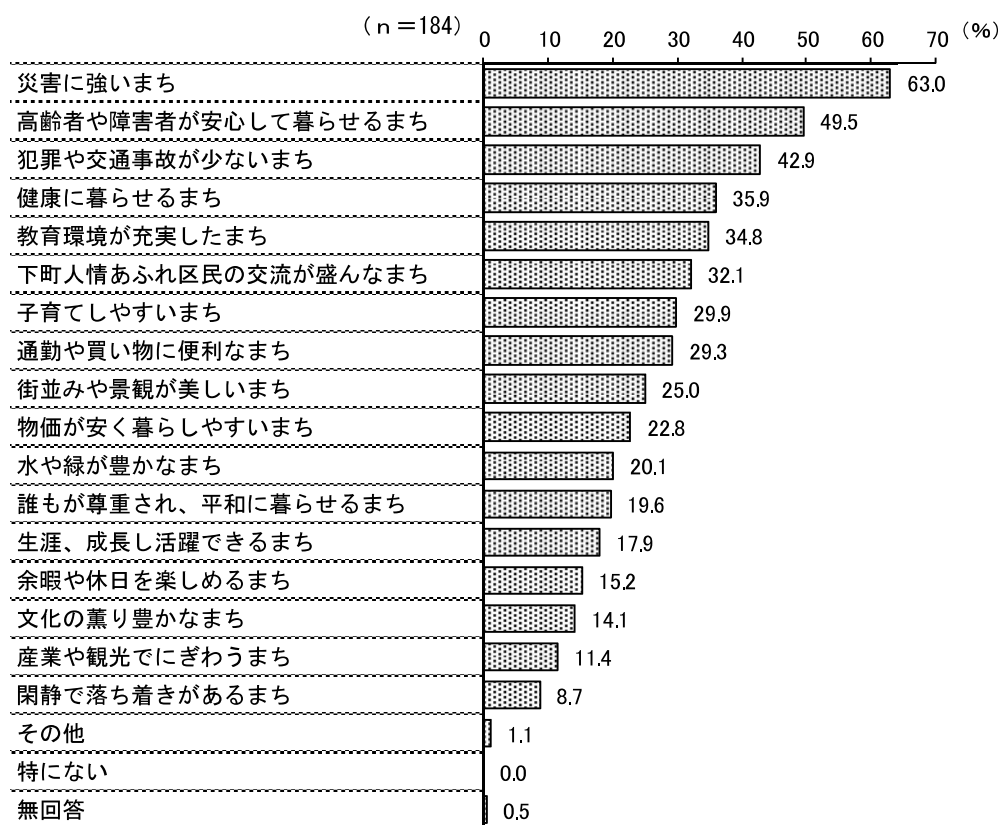


## (2) 「20年後30年後の葛飾区がどんなまちであってほしいか」

- 問1** (1)～(3)の質問について、＜選択肢＞からそれぞれ選んでください。  
 (2) あなたは、20年後、30年後の葛飾区がどんなまちであって欲しいと思いますか。  
 当てはまるものを5つまで選んでください。

「20年後30年後の葛飾区がどんなまちであってほしいか」については、「災害に強いまち」が63.0%と最も高く、次いで、「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」が49.5%、「犯罪や交通事故が少ないまち」が42.9%、「健康に暮らせるまち」が35.9%となっている。

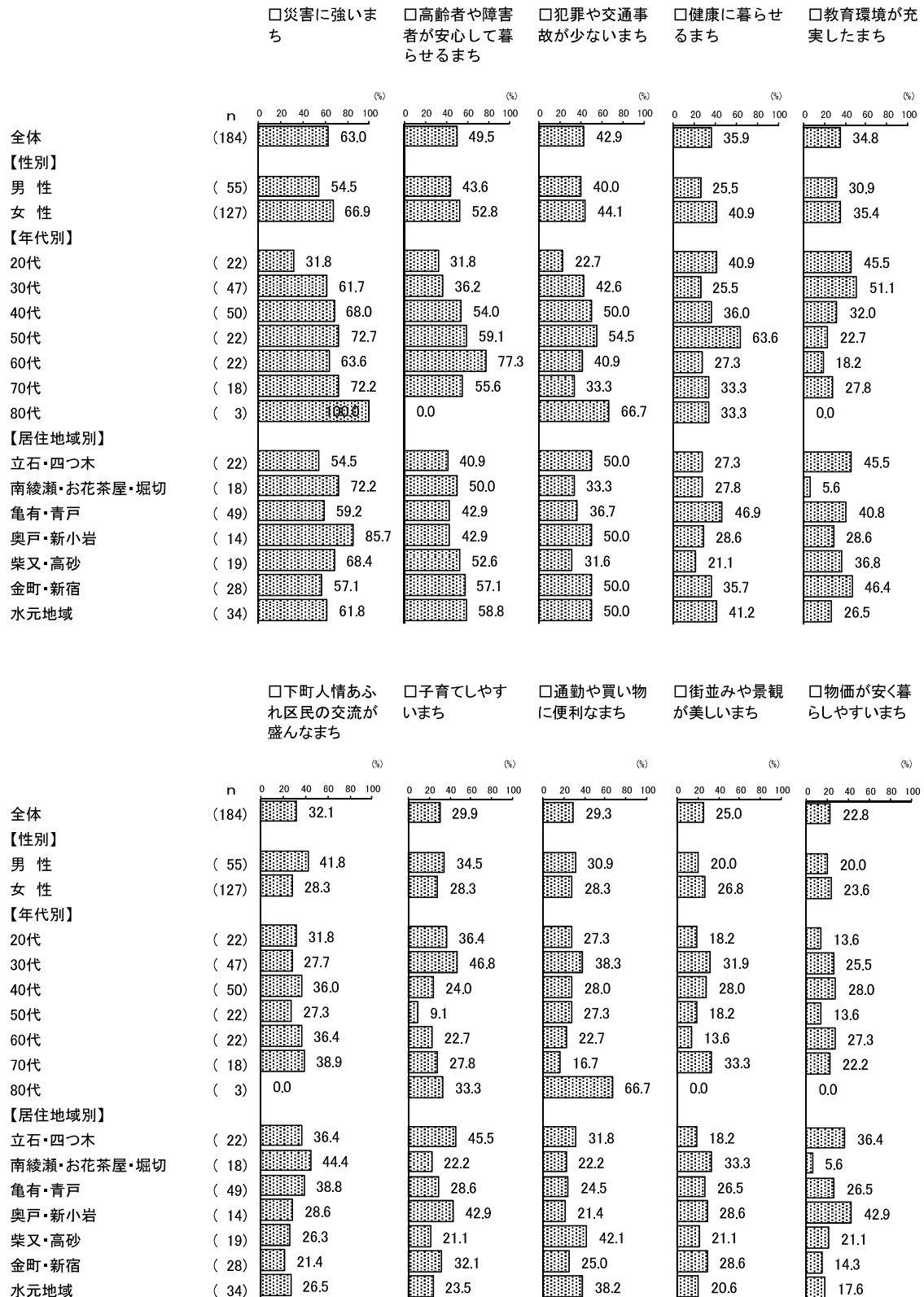
図表-3 「20年後30年後の葛飾区がどんなまちであってほしいか」(全体)



属性別でみると、「災害に強いまち」は女性で 66.9%と高く、年代別では 50 代、70 代、80 代で 70%を超えて高くなっている。また、「教育環境が充実したまち」は 30 代で 51.1%と最も高くなっている。

図表-4 「20年後30年後の葛飾区がどんなまちであってほしいか」

(性別・年代別・居住地域別—上位10項目)

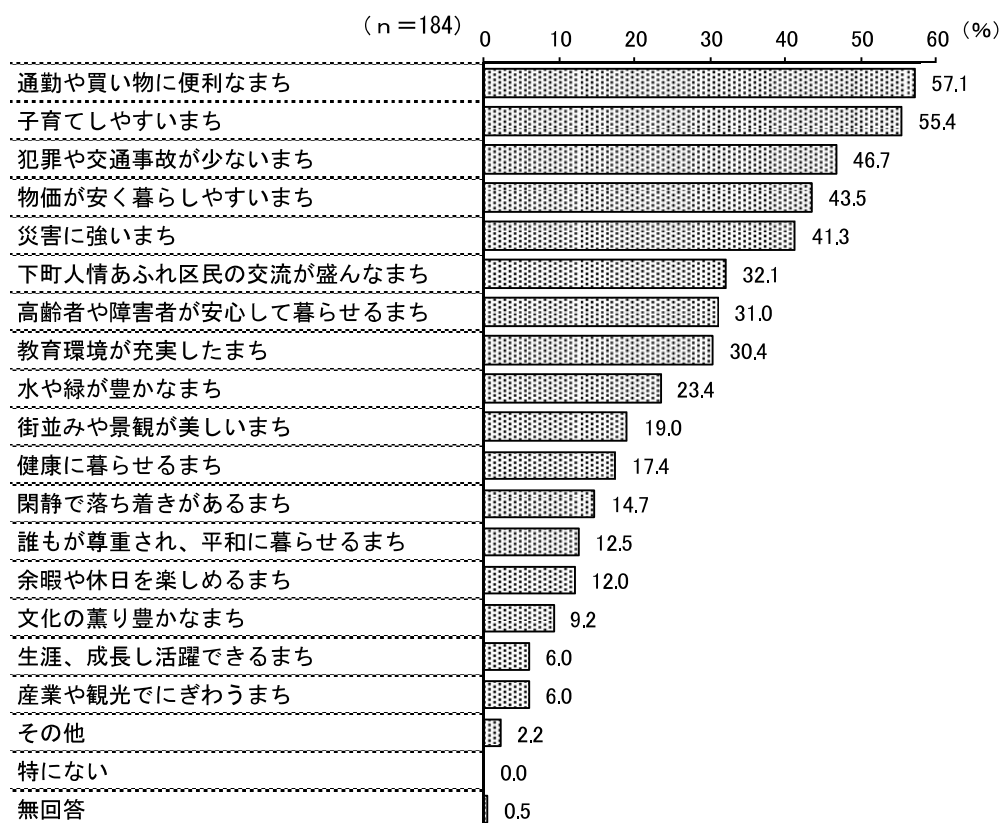


### (3) 「葛飾区への転居を勧める場合にどんなまちであってほしいか」

- 問1** (1)～(3)の質問について、＜選択肢＞からそれぞれ選んでください。
- (3) 区外の親族や知人に対して、あなたが葛飾区への転居を勧めるとした場合、どんなまちであって欲しいと思いますか。当てはまるものを5つまで選んでください。

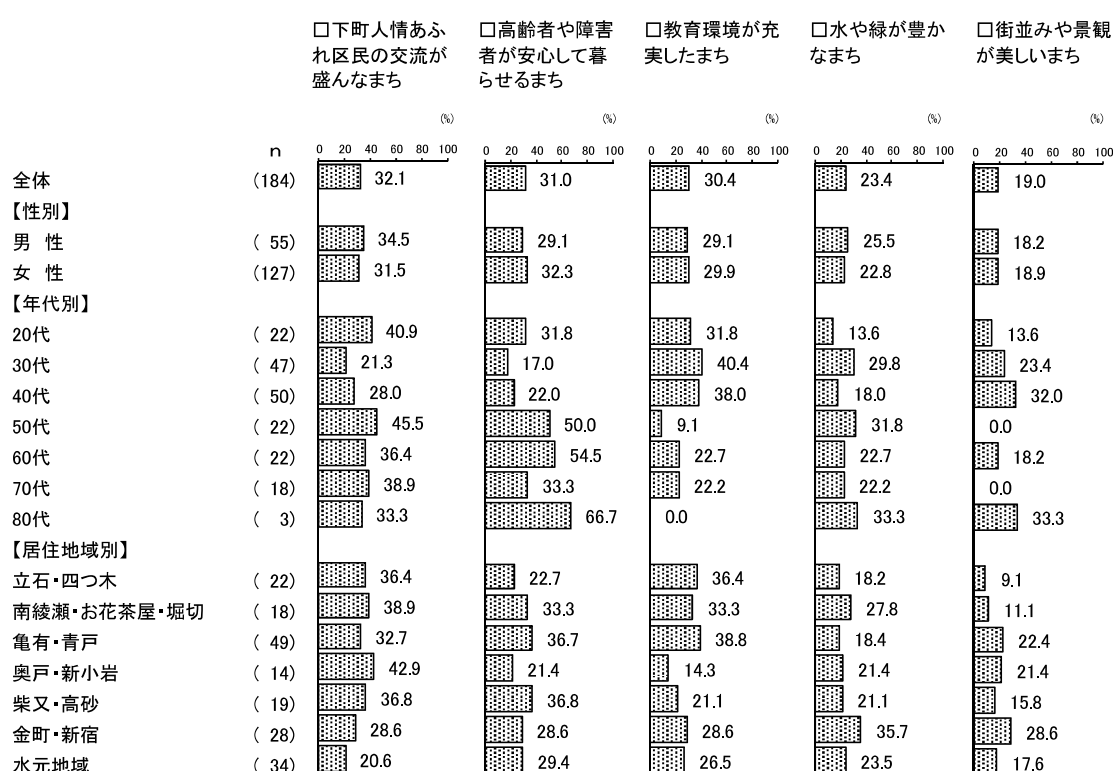
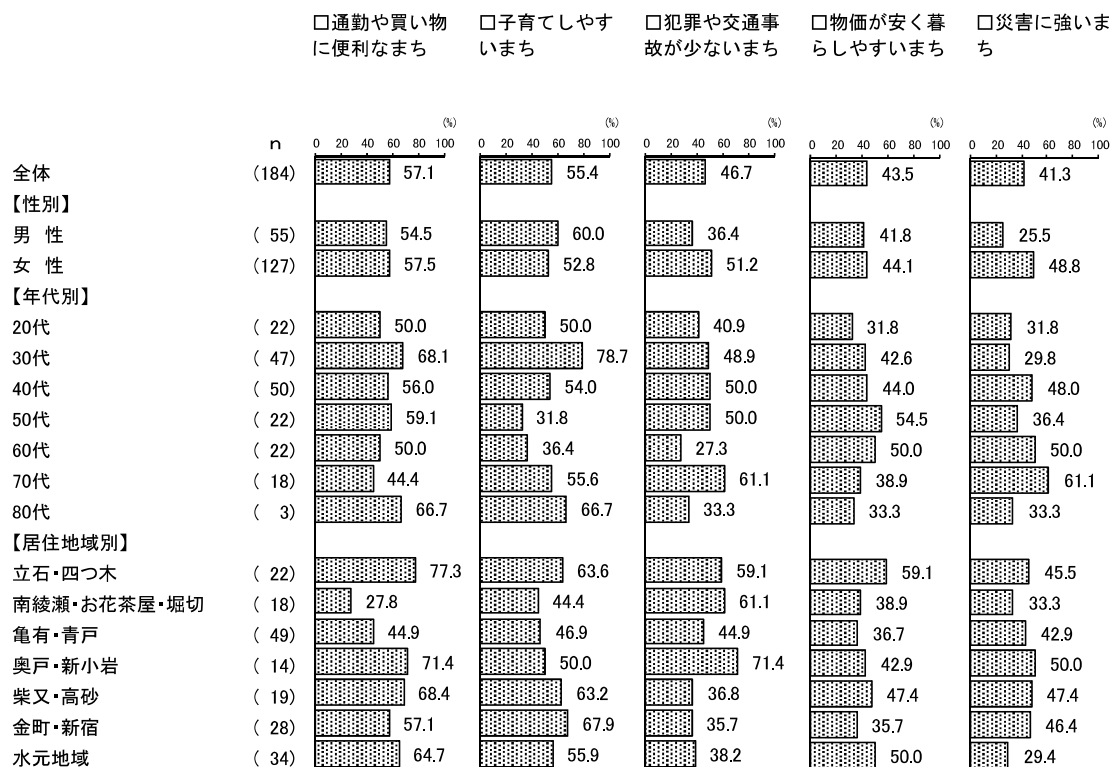
「葛飾区への転居を勧める場合にどんなまちであってほしいか」については、「通勤や買い物に便利なまち」が57.1%で最も高く、次いで「子育てしやすいまち」が55.4%、「犯罪や交通事故が少ないまち」が46.7%、「物価が安く暮らしやすいまち」が43.5%、「災害に強いまち」が41.3%となっている。

図表-5 「葛飾区への転居を勧める場合にどんなまちであってほしいか」(全体)



属性別でみると、「通勤や買い物に便利なまち」は30代で68.1%と最も高い。「子育てしやすいまち」は30代で78.7%と最も高くなっている。

図表-6 「葛飾区への転居を勧める場合にどんなまちであってほしいか」  
(性別・年代別・居住地域別—上位10項目)



## 2. 防災について

### (1) 家庭内での備蓄品

#### I 家庭における備蓄などについて

首都直下地震が発災した場合、水道、電気、ガスのライフラインや物流が滞り食料、生活必需品が不足することが想定されます。

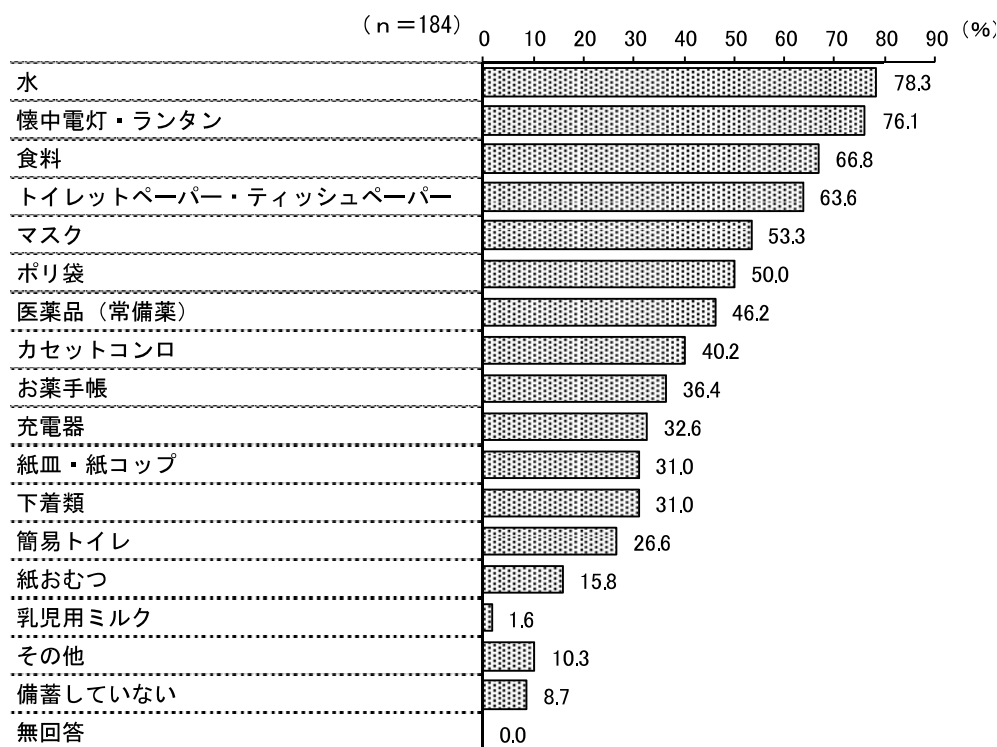
自らの備えとして3日分、できれば7日分の備蓄を各家庭において用意しておくことが望ましいとしております。（区では、家屋の倒壊などにより自らの備蓄が利用できない方のため、避難生活者約13万人の1日分の食料を備蓄し、2日目以降は都の備蓄や救援物資を活用することとしております。）

このほか、日頃の備えとして家具の転倒防止などの対策も重要です。

**問2** 災害に備え家庭内においてどのようなものを備蓄や準備をしていますか（〇はいくつでも）。

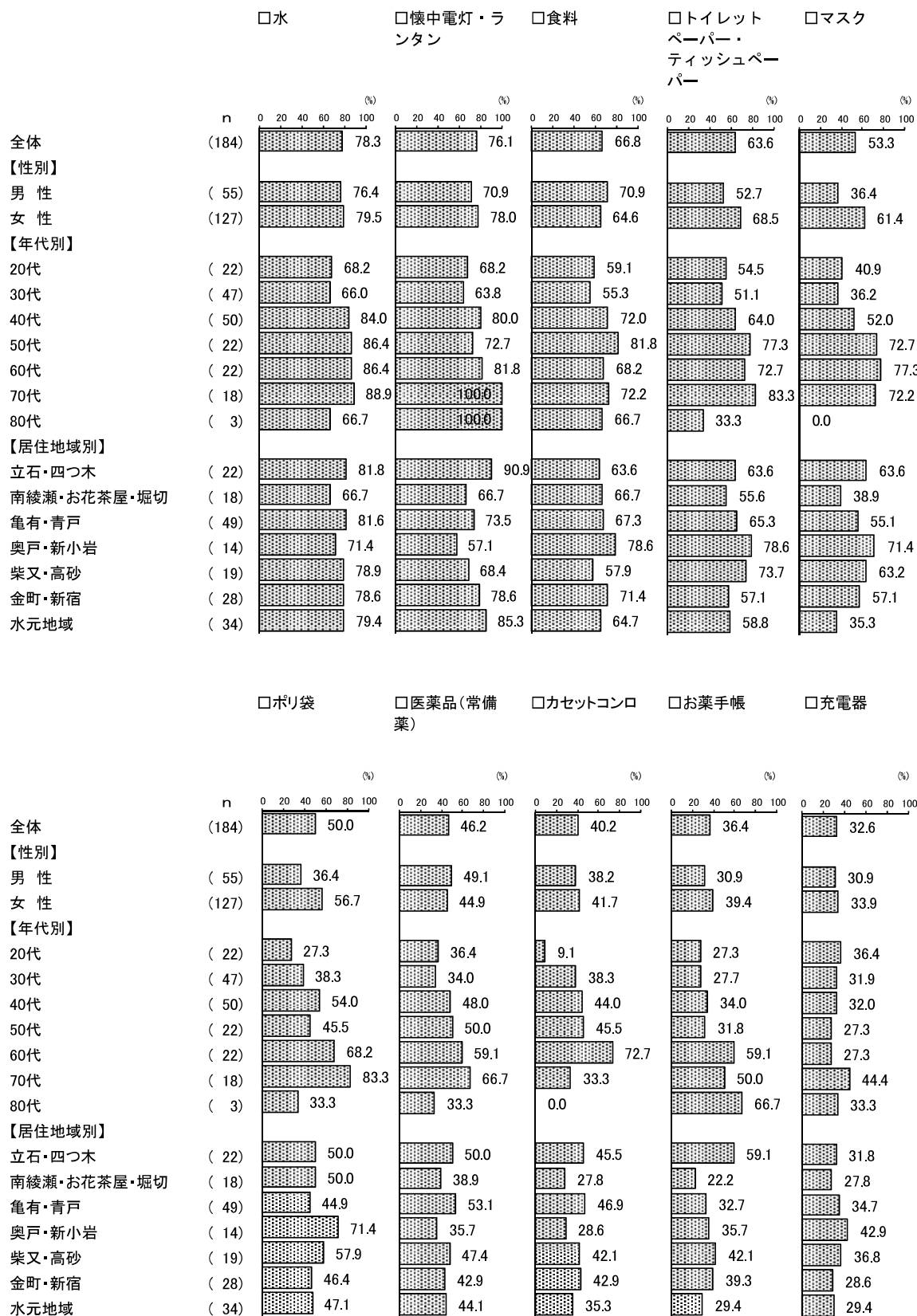
家庭内での備蓄品は、「水」が78.3%で最も高く、次いで「懐中電灯・ランタン」が76.1%、「食料」が66.8%、「トイレットペーパー・ティッシュペーパー」が63.6%となっている。一方で、「備蓄していない」は8.7%となっている。

図表-7 家庭内での備蓄品（全体）



属性別で見ると、「トイレットペーパー・ティッシュペーパー」「マスク」「ポリ袋」は女性で高くなっている。

図表-8 家庭内での備蓄品（性別・年代別・居住地域別—上位10項目）



## (2) 家庭内での備蓄量

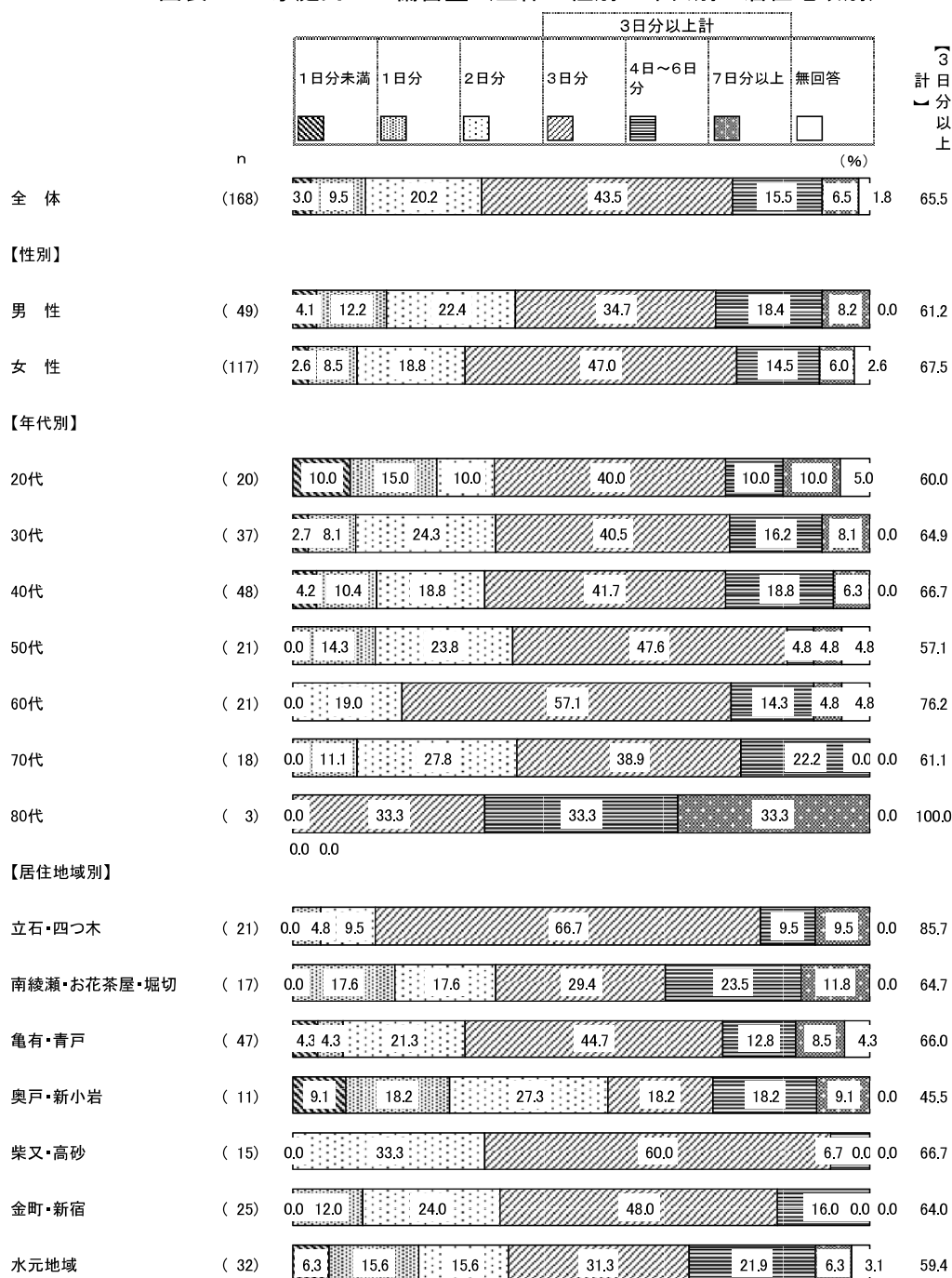
(問2で「1」～「16」を選択した方にお伺いします。)

問3 どのくらい備蓄していますか (○は1つ)。

家庭内での備蓄量は、「3日分」が43.5%で最も高く、次いで「2日分」が20.2%、「4～6日分」が15.5%となっている。また、望ましいとされる「3日以上」は65.5%となっている。

属性別で見ると、「3日以上計」が60代、80代で70%を超えて高くなっている。

図表-9 家庭内での備蓄量 (全体・性別・年代別・居住地域別)





### (3) 備蓄していない方の「必要な備蓄量の認知」「備蓄していない理由」

(問2で「17. 備蓄していない」を選択した方にお伺いします。)

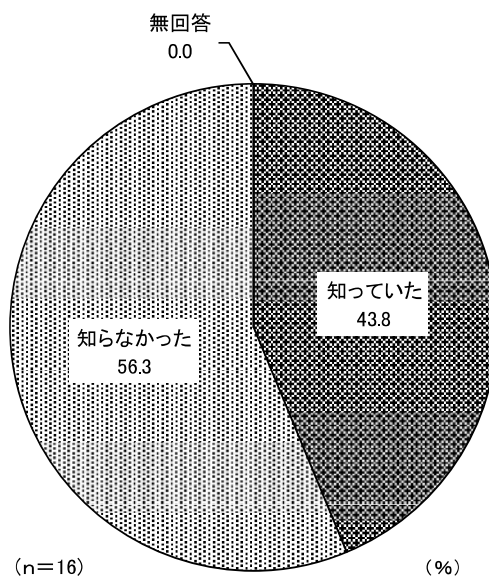
問4 自らの備えとして3日分の備蓄が必要であることはご存知でしたか(○は1つ)。

問5 備蓄していない理由はなんですか(○はいくつでも)。

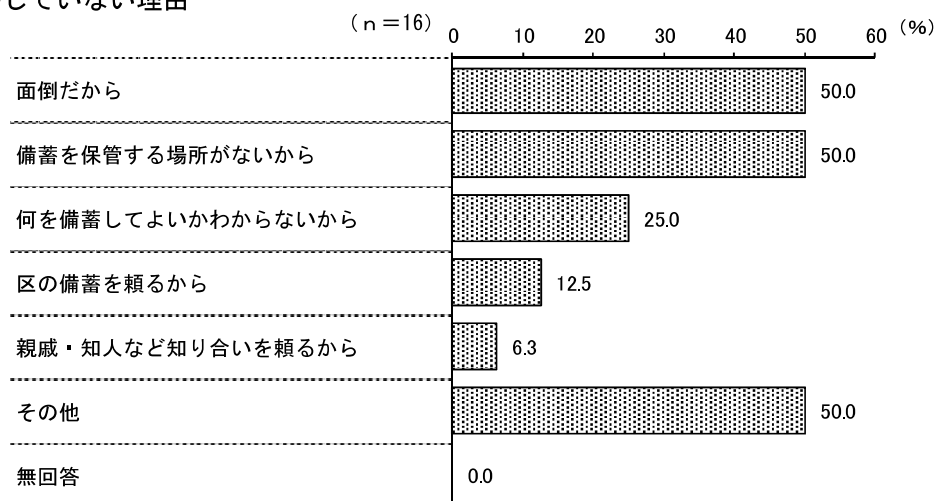
備蓄していない方の「必要な備蓄量の認知」では、「知っていた」が43.8%となっている。  
また、「備蓄していない理由」では、「面倒だから」「備蓄を保管する場所がないから」が共に50.0%と最も高くなっている。

図表-10 備蓄していない方の「必要な備蓄量の認知」「備蓄していない理由」(全体)

#### ◆必要な備蓄量の認知



#### ◆備蓄していない理由



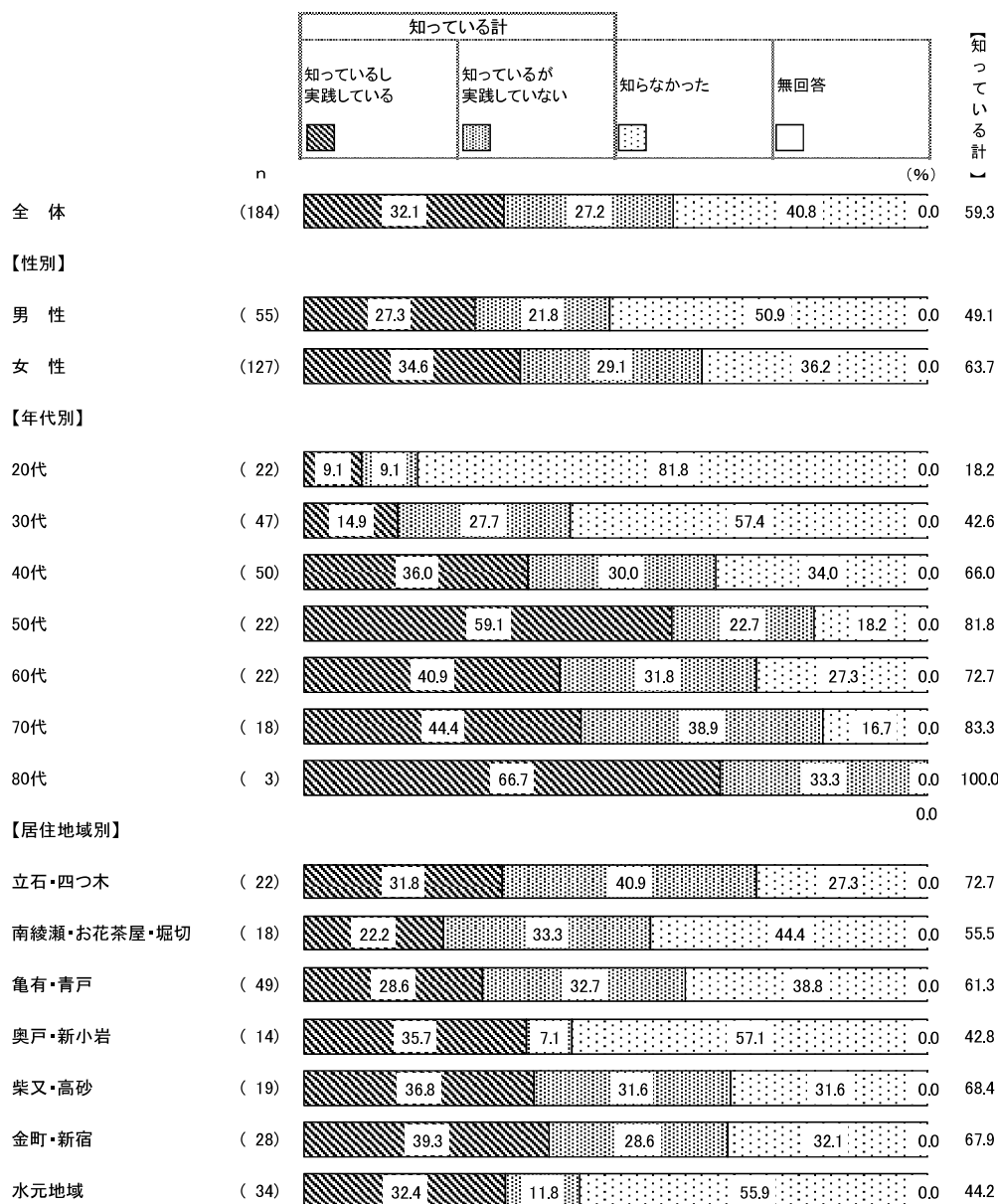
#### (4)「ローリングストック」の認知

**問6** 「ローリングストック」(※)という言葉をご存知でしたか。また、実践していますか(○は1つ)。  
 ※ローリングストックとは、日常的に利用できる食材(カップめんや缶詰等)を多めに購入し、古いものから使い、使った分を補充していくことで、賞味期限切れの無駄をなくすもの。

「ローリングストック」について、「知っているし実践している」は32.1%、「知っているが実践していない」を合わせた「知っている計」が59.3%となっている。

属性別に見ると、50代以上では70%以上が「知っている」としているのに対し、30代以下では「知っている」が50%に満たない。また、「知っているし実践している」割合も50代以上では40%以上であるのに対し、30代以下では15%以下に留まっている。

図表-11 「ローリングストック」の認知(全体・性別・年代別・居住地域別)



## (5) 区に備蓄を望むもの(自由記述)

問7 自らが備蓄できないもので、区に備蓄を望むものはありますか。

### (具体的な記述内容)

- 水、ペットフード、生理用品、シャンプー、歯みがきなどの衛生品。水害時のゴムボートなど(使用時に故障ないように)。(立石・四つ木/40代/女性)
- 毛布やトイレなど大きいもの。(立石・四つ木/60代/女性)
- 乳幼児、小学生、中学生たちの遊び道具や学用品。東日本大震災でお菓子は潤沢に配布されたが、子どもたちの不安を紛らわす遊び道具。例:画用紙、クレパス、折り紙、ノート、筆記用具等が流されて全くなり、知人に送った。(亀有・青戸/70代/女性)
- 飲料水だけでなく水。水は重くて避難の際にそんなに持っていけない。充電器、乳児用ミルク。(立石・四つ木/60代/女性)
- 水や食料、避難所で必要な女性の生理用品や歯ブラシなどの衛生用具、簡易的なシャワーや風呂などの用意。※私の家は柔道場が残っているのでそういった所との連携を密にする事も大切だと思う。(立石・四つ木/40代/男性)
- トイレの整備、衛生。乳幼児の環境整備。イタリア、韓国など他国の避難所を見て驚いた。あのレベルとは申しませんが、東京都が先立って良くして欲しい。(亀有・青戸/60代/女性)
- 飲料としての水は自ら備蓄するが、それ以外の例えば簡易シャワーを使える程度の水の備蓄。突然の災害で体調を崩す高齢者のための車椅子や簡易ベッドの備蓄。毛布・布団など個人が持ち運ぶために手に余るもの。できれば避難所で家族ごとのスペースを確保するためのダンボールで出来た仕切り。災害時、慌てて避難するため、靴などが脱げて裸足になってしまう人もいる。細かいことだが、靴も大人から子ども・乳幼児のものまで大小揃えて備蓄されているとよいと思う。(金町・新宿/70代/女性)
- 避難所で使うダンボールベットと仕切りの壁。夏はエアコン(又は代わりになるもの)、冬はストーブ、発電機(大型)。(金町・新宿/40代/女性)
- 必要と考えられる全てのものを十分に備蓄して欲しい。(奥戸・新小岩/40代/女性)
- 簡易トイレを1家族1個ずつ位望む。(水元地域/80代/男性)
- 簡易トイレもいくつかは準備しているが、数日間復旧しない場合はなかなか厳しくなってくるかと思う。もし区で用意できるものがあればとても助かる。(金町・新宿/40代/女性)
- トイレ(簡易トイレ)。(柴又・高砂/60代/女性)(水元地域/50代/女性)(亀有・青戸/60代/男性)(水元地域/30代/男性)(亀有/青戸/40代/男性)(柴又・高砂/30代/女性)(水元地域/40代/女性)
- 長期停電時の対策。コンビニでも売り切れてしまうもの。電池、情報入手に必要なもの。ポケットラジオ(1000円位で充分)。(柴又・高砂/70代/男性)
- 子ども用ミルク、紙おむつ等の乳児用品。(柴又・高砂/30代/女性)
- コンロ、トイレ。(亀有・青戸/40代/女性)
- プライバシーを守るパーテーションの設置。(南綾瀬・お花茶屋・堀切/60代/女性)
- 避難所での椅子(パイプ椅子等)の数を多く備蓄して欲しい。簡易トイレの数を多く備

- 蓄してほしい。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／70代／女性)
- テント、トイレ。水で動けない場合のボート。情報を早く伝達してほしい。(奥戸・新小岩／70代／女性)
  - 災害の内容にもよるが、自らの備蓄には限りがあるし、ライフラインの伝える手段が区のホームページを見れない年代等もあることの伝達手段を考えてもらいたい。東京都の防災ブック「東京暮らし防災」は役に立つように思う(見ている人は少ないかな?)。(亀有・青戸／70代／女性)
  - トイレ、お風呂、夏場であれば簡易シャワー、冬場であれば防寒具(毛布等)。(金町・新宿／30代／女性)
  - 布団、洋服、ガソリン、野菜果物、生鮮食品、携帯充電機、酸素ボンベ。(亀有・青戸／40代／女性)
  - 簡易トイレ、水、汗ふきシートのようなお風呂に入れない時の対策品、液体ミルク、使い捨て哺乳瓶、離乳食。(金町・新宿／20代／女性)
  - 米、水、少しは備えてあるが、どれくらいを用意すれば良いのか。風呂の水(湯)は、その都度トイレ用に残してある。こういったことを、指導・教えてくれる会があっても良いのではないかと思う。(水元地域／80代／男性)
  - 布団、水、食品、衣類(下着含む)。(水元地域／50代／女性)
  - 寝袋。(金町・新宿／30代／男性)
  - 災害避難場所の環境整備。できるだけ大スペースの場所でなく、小スペースの避難場所をたくさん確保してほしい。(水元地域／40代／女性)
  - トイレ、水、食料、毛布、生理用ナプキン。(金町・新宿／40代／女性)
  - 非常電源(夏場のエアコン用電源)。(金町・新宿／40代／男性)
  - 避難所でプライバシーが最低限守られた生活ができることを望む。(金町・新宿／60代／女性)
  - 水、食料品。(金町・新宿／50代／女性)
  - 生活用水、電力、ガス等のライフラインに関わるものを望む。また、避難した場合等、布団や椅子等、大型のものは図などで準備しておいてもらえたらありがたいと思う。(立石・四つ木／40代／女性)
  - トイレ、公共トイレを災害用にするための準備。自宅トイレを使えるようにするためのセット。簡易トイレは値段が高く、どこまで準備すればよいか分からない。(亀有・青戸／40代／女性)
  - 紙おむつは備蓄しているが、数が足りなくなると思うので、お願いしたい。(奥戸・新小岩／30代／女性)
  - 粉ミルク、液体ミルク、哺乳瓶洗剤、紙おむつ、離乳食(特に月齢で変わるので、たくさんあってもすぐ使えなくなる)。(立石・四つ木／30代／女性)
  - テント、簡易トイレ、寝具、調理器具、着替え、簡易シャワー、携帯等の充電器、栄養食料。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／50代／男性)
  - 食料、水、トイレ。(水元地域／30代／男性)
  - 簡易トイレ、食料(幼児)。(水元地域／30代／女性)
  - 水害の際の避難所。(水元地域／40代／女性)
  - 発電機。(水元地域／30代／女性)(立石・四つ木／40代／女性)(金町・新宿地域／60

- 代／女性) (亀有・青戸地域／40代／女性)
- 寝具類、トイレ、簡易風呂、洗剤。(奥戸・新小岩／70代／女性)
  - 正しい情報。(水元地域／50代／女性)
  - 温かい食事が食べられる用意、お手洗の便器のにおい消し、お風呂の用意。(柴又・高砂／60代／女性)
  - ガソリン。(金町・新宿／30代／女性)
  - ライフラインが止まっても、お風呂に入れるようにしてほしい。(奥戸・新小岩／30代／女性)
  - 発電機、簡易トイレ。(亀有・青戸／60代／男性)
  - 現実に災害経験がないが、避難所の設置数。(立石・四つ木／70代／男性)
  - トイレや避難所の確保。食料もあつた方が良好いけれど、区役所が全てを確保できるはずない。理解していたつもりで認識していなかった。電気(コンセント)やインターネット回線などを確保してもらえると良いかもしれない(区からの情報を確認できるようにするため)。最終的には食料もやはり必要かも。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／40代／男性)
  - 簡易トイレ(実際、大きな地震に短期間にあつた事があるが、センサーのところのトイレとかは機能しないし、大変困つた。バイオトイレなどを公衆トイレに使用したりして、災害が起きて安心してトイレが出来る事が一番大事であると思う)。水(少しは準備しているが、多分突然大きな災害が起きたら足りないと思うから)。※トイレの水を流すにも、水が大変必要になる。(亀有・青戸／50代／女性)
  - 簡易式トイレ、寝具(段ボール式でもOK)、充電コンセントを利用できる発電機など、薬類(バファリン、正露丸など)、エアコン(冷暖用)、扇風機(大型の物)。近年、区内の古民家などの空き家が増加し、集約地上げされ、マンション開発が進んでいる。マンション内には緑地や遊び場(公園)の併設が義務化されているが、実際は、小規模で有効利用されているとは思わない。マンション組合の協力や、当該法との兼ね合いもあるが、地域防災強化へ一部活用できないか、検討してみても如何か。(奥戸・新小岩／40代／男性)
  - 簡易トイレ、火器類。(奥戸・新小岩／20代／男性)
  - 寝具、寝袋。暑さ、寒さをしのぐもの。家庭では足りない食料。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／40代／女性)
  - 簡易トイレ、簡易ベッド、間仕切、毛布。(亀有・青戸／50代／女性)
  - 消毒液等、虫よけ、害虫駆除の薬(スプレーや蚊とり線香等)、テント。(亀有・青戸／40代／女性)
  - 簡易トイレの場所を作ってほしい。(亀有・青戸／60代／女性)
  - 女性用生理用品(車イスを妹の分として用意をするが、補充分として)、電池(補充)、大きめの衣服、水分。(水元地域／50代／女性)
  - 生鮮食品、個人的に備蓄が難しい。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／70代／女性)
  - お風呂、シャワー用の大量の水、ガス(出来るか分かりませんが)、料理用など。携帯用Wi-Fi、布団一式、パーテーション(仮設住宅用の仕切りのため)、乗り物とその燃料(バス、車とガソリン)。(柴又・高砂／30代／女性)
  - 食物アレルギー対応食。(立石・四つ木／30代／女性)
  - 水、季節の衣類、子ども用の食品、トイレ。(亀有・青戸／30代／女性)

- テント、簡易トイレ、カセットコンロ。(柴又・高砂／70代／男性)
- タオルや布団、トイレ、電池など。(水元地域／30代／女性)
- トイレ、充電器、テント。(水元地域／30代／男性)
- 食料、カセットコンロ。(立石・四つ木／70代／男性)
- テント、シェルター。(亀有・青戸／30代／女性)
- 入浴施設、電話・通信環境。(金町・新宿／30代／女性)
- 阪神淡路大震災の時トイレが足りなく、また不潔になっていたという事を友人から聞いたので、トイレの問題解決をお願いしたい。また、避難というものをした事がないので、避難所のプライバシーを守れるようにしていただけたらと思う。少し前にNHKの朝の番組で避難所を作るという番組をやっていて、こんなふうに来れるのか、と思った。でもそれは誰かがやってくれるのではなく、住民が自ら作らねばならない事に気付き、とても勉強になった。熊本地震の時、避難所に冷・暖房がないので車中泊するなどしてエコノミークラス症候群になった。冷・暖房があると良いのでは、と思う。(亀有・青戸／50代／女性)
- 水、簡易トイレ。(立石・四つ木／30代／女性)
- 飲料水、携帯トイレ。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／40代／女性)
- 水、食料。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／70代／女性)
- 緊急時の備えで、区民がどこでも自由に利用できる充電スポットの設置を希望する。(立石・四つ木／40代／女性)
- 備蓄に必要なものすべて。(奥戸・新小岩／40代／男性)
- 簡易トイレ、毛布、寝具、飲料水以外の水。(立石・四つ木／50代／女性)
- 水、タオル、ウェットティッシュ(それぞれある程度備蓄しているが、予備として多めにあったと安心)。(柴又・高砂／50代／女性)
- 医療品、家庭以上の薬、ケガの対応。(水元地域／40代／女性)
- 発電機、蓄電池、乾電池(特に単4、単3中心)、チェーンソー、簡易トイレ、連絡用公衆電話、携帯・スマホ用充電機。(柴又・高砂／70代／男性)
- 暑い時期に早く体を冷やす物、寒い時期に素早く体を温める物。(柴又・高砂／50代／女性)
- 防寒着、防寒具。(奥戸・新小岩／30代／女性)
- ソーラーパネルなど再生可能エネルギーを利用した発電機。(立石・四つ木／40代／女性)
- 仮設トイレ。(水元地域／40代／男性)
- 救命ボートなど。(亀有・青戸／40代／女性)
- 火(まき、マッチなど)。(水元地域／30代／女性)
- 川が氾濫したときに使用するボート、簡易トイレ。(金町・新宿／50代／男性)
- 避難場所の確保(空地、空き家の活用)、避難場所での生活必需品の確保。(柴又・高砂／60代／男性)
- 家の事情だが、子どもが5人もいると常に3日分ストックというのはなかなか難しい。水も飲料も他のお家よりも多くなるといつもため息が出てしまう(つまり、常に3日分は本当に大変)。たとえば、家族が多い方には…。というような体制が取れていて、また、すぐ近くにもらいに行けるような情報などが出ればいいと思う。(水元地域／30

代／女性)

- 水は重たいし、場所をとるので個人ではどの位の量を蓄えればいいのか分からないし、半ダースくらいの水を置いていても消費期限で使用した後補充してない。住んでいるのが老夫婦なので、どれ位の量が必要か分からないのでなかなか蓄えがむずかしい。(水元地域／70代／女性)
- 体を清潔に保てば不快感もなくなるし、感染症も防げると思うので、お風呂やシャワーが使える場所を設置してもらいたい。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／40代／女性)
- 電気が止まった時でも使えるパソコンが公共施設にあれば、安否確認の際に助かる。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／30代／女性)
- 簡易トイレ、コンタクトレンズ、メガネ、生理用品。(亀有・青戸／40代／女性)
- ダンボール、毛布(寝袋など)。(柴又・高砂／30代／女性)
- 自分が直腸障害であるのでストーマのアクセサリを備蓄してほしい。水害等の事を思うと心配である。子どもが障害を持っているので(知的障害者・自閉症)、こだわりの品等がないと。混乱しない様にとと思う。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／60代／女性)
- 2011年東日本大震災の折り、東京で葬儀社に勤めていた私は、全日本葬祭よりの指示依頼で、関東の葬儀社と共に兵庫に向かった(ドライアイス、柩)。避難場で皆さんが一番困っていたのが、トイレの断水だった。公民館や小・中学校の庭を皆さんが掘り出し、簡易シートや毛布で囲い、用足しをされていた。トイレは困っていた。現在は、マンホールの蓋を開け、簡易トイレを設置できると思う。備蓄と避難訓練でのマンホールトイレの組み方講習を是非お願いしたい。(柴又・高砂／60代／男性)
- 敷物、ペットボトル、簡易トイレ。(亀有・青戸／60代／女性)
- 充電機、発電機。(水元地域／40代／女性)
- 洗浄用の水、幼児も食べられる栄養食。(亀有・青戸／40代／女性)
- 食料、水、トイレ、布団、トイレトペーパー、衣服。(水元地域／40代／女性)
- 毛布、寝るためのもの。(奥戸・新小岩／30代／女性)
- 必要最低限生活ができるもの。子どもが不自由しないようなもの。(金町・新宿／20代／女性)
- 米、水、布団。(水元地域／30代／男性)
- 毛布など、食料。(立石・四つ木／30代／男性)
- 水、生理用品、紙おむつ(大人用)、ご飯。(奥戸・新小岩／20代／女性)
- 排出物収集車(巡回)、一斉放送設備(現在は風の影響等ですべての言葉が全部ハッキリ聞こえない)、自衛隊等の巡回警備、2回目以降の水。(金町・新宿／50代／男性)
- 寝る場所、ストーブ。(亀有・青戸／20代／女性)
- ダンボール、お風呂、ガムテープ、スズランテープ、スリッパ。(金町・新宿／20代／女性)
- 基本的に「ライフライン」の設置の徹底をお願いしたい(避難生活が少しでも落ち着いて出来れば)。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／70代／男性)
- 赤ちゃん用の液体ミルクは賞味期限が短いので区でも備蓄してほしい。ベビーフードもお願いしたい。(金町・新宿／30代／女性)
- ボート、ライフジャケット、ヘルメット、医療品特に肌に関するもの、お風呂に入らない時の洗える手法、大量の水、調理器具、缶切りや栓抜き、ポット。(金町・新宿／30

代／女性)

- 簡易トイレ、飲料水、テント、お風呂、医薬品、非常食、非常用電源。(立石・四つ木／60代／女性)
- 浅草橋のフードバンクともう一度仲良くなってもらいたい。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／30代／男性)
- 冷暖房。(亀有・青戸／30代／女性)
- 電気。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／50代／女性)
- アルコール除菌スプレー、簡易プレハブと避難場所で使うプライバシー確保のための間仕切、災害時に閉じ込められた人を救助するための壁や扉を破壊する工具。(金町・新宿／20代／男性)
- 食料品。(亀有・青戸／30代／男性)
- 災害用トイレ。(亀有・青戸／30代／男性)
- スリッパ、衛生用品。(亀有・青戸／50代／女性)
- 1～2日分ぐらいいしか備蓄していないので避難が長引いたことを考え、水、食料、簡易トイレ、毛布、医薬品の備蓄を望む。(柴又・高砂／70代／男性)
- 食料品以外のもの、薬や下着。(亀有・青戸／60代／男性)
- 蓄電装置。(水元地域／50代／男性)
- 簡易トイレ、毛布などの防寒具、薬。(亀有・青戸／40代／女性)
- 障害者のためのもの。(亀有・青戸／20代／女性)
- 粉ミルク、紙オムツ(立石・四つ木／40代／女性)
- 布団、充電器。(水元地域／20代／女性)
- 食料、水、トイレットペーパー、毛布。(亀有・青戸／40代／女性)
- 水、食料。(亀有・青戸／20代／男性)(亀有・青戸／40代／男性)
- がれきの上を歩く時の鉄板が底にある靴。プライバシーを守るための簡易テント。(亀有・青戸／60代／女性)
- 電気。(水元地域／50代／女性)
- 避難所での仕切り。(金町・新宿／50代／女性)
- ある程度備蓄できても全て大量に出来ない。自治体が頼りになる。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／60代／女性)
- 簡易トイレ、食料、水は備蓄期間があるので、区で定期的に古いものを引き取り、新たなものを安価で購入させるシステムにすれば備蓄が進むのではないか。(奥戸・新小岩／50代／男性)
- テント。体育館などで避難生活をする場合のプライバシー確保をしたい。立場の弱い人が同じ避難者から攻撃にさらされる可能性があると感じている。少しでも視線を避けて安心して生活できるようにしたい。(水元地域／30代／女性)
- 簡単なテント。避難所や野外で生活するときのプライベート空間とプライバシー確保のために使いたい。(南綾瀬・お花茶屋・堀切／30代／女性)
- 処方薬。(金町・新宿／40代／女性)
- 区に望んでも災害時に受け取ることは不可能だと思う。であれば自らが日頃から代用品になりうる物を備えておくことが必要だと思う。(水元地域／60代／男性)
- コンロ。(亀有・青戸／20代／女性)



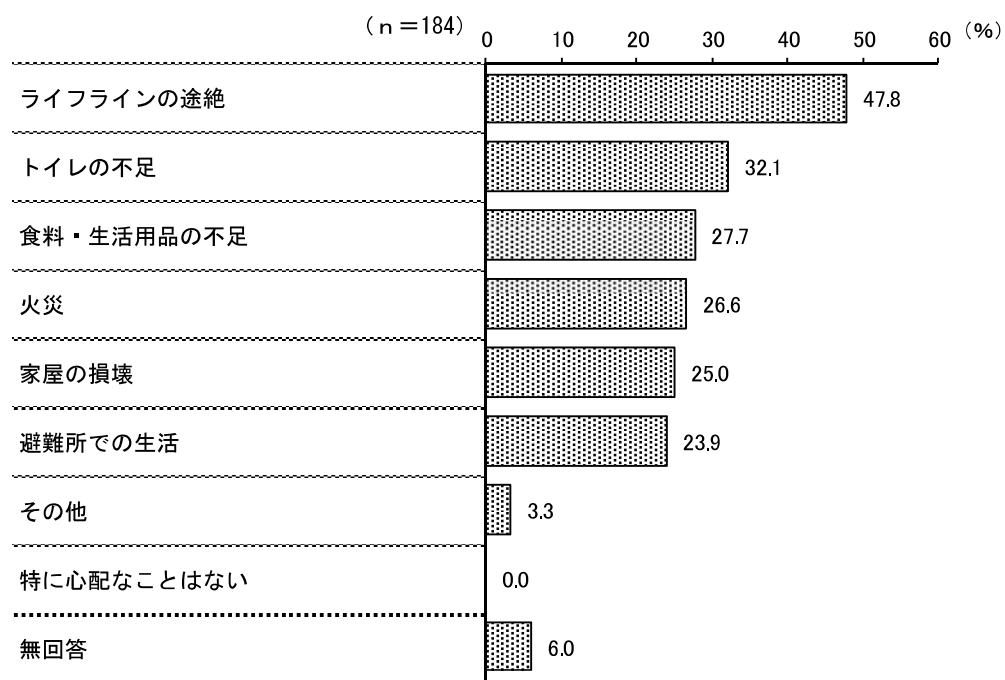
- 犯罪抑止になるもの。(立石・四つ木／40代／男性)
- テント。(亀有・青戸／20代／男性)
- 水道、電気、ガス。(亀有・青戸／40代／女性)
- 簡易トイレ、プライバシーを確保できる簡易な壁(避難所での)、毛布などの寝具。(金町・新宿／60代／男性)
- 医薬品、乳児用ミルク。(柴又・高砂／60代／女性)
- 大量の水。(金町・新宿／20代／女性)
- トイレの設置。(奥戸・新小岩／50代／女性)
- 食料、水、段ボール。(亀有・青戸／40代／男性)
- 簡易トイレ、食料、簡易宿泊用具(巻き段ボールなど)。(立石・四つ木／40代／男性)
- 寝具。(立石・四つ木／30代／女性)
- 水。(金町・新宿／20代／男性)
- 衣服。(亀有・青戸／20代／男性)
- 仮設トイレや持ち運びがしにくい厚手の毛布。(亀有・青戸／20代／女性)
- 十分な食料、生活用品のある避難所。立地的な損失による保障。(柴又・高砂／40代／女性)

## (6) 災害時に心配なこと

問8 災害時において特に心配なことは何ですか（○は2つまで）。

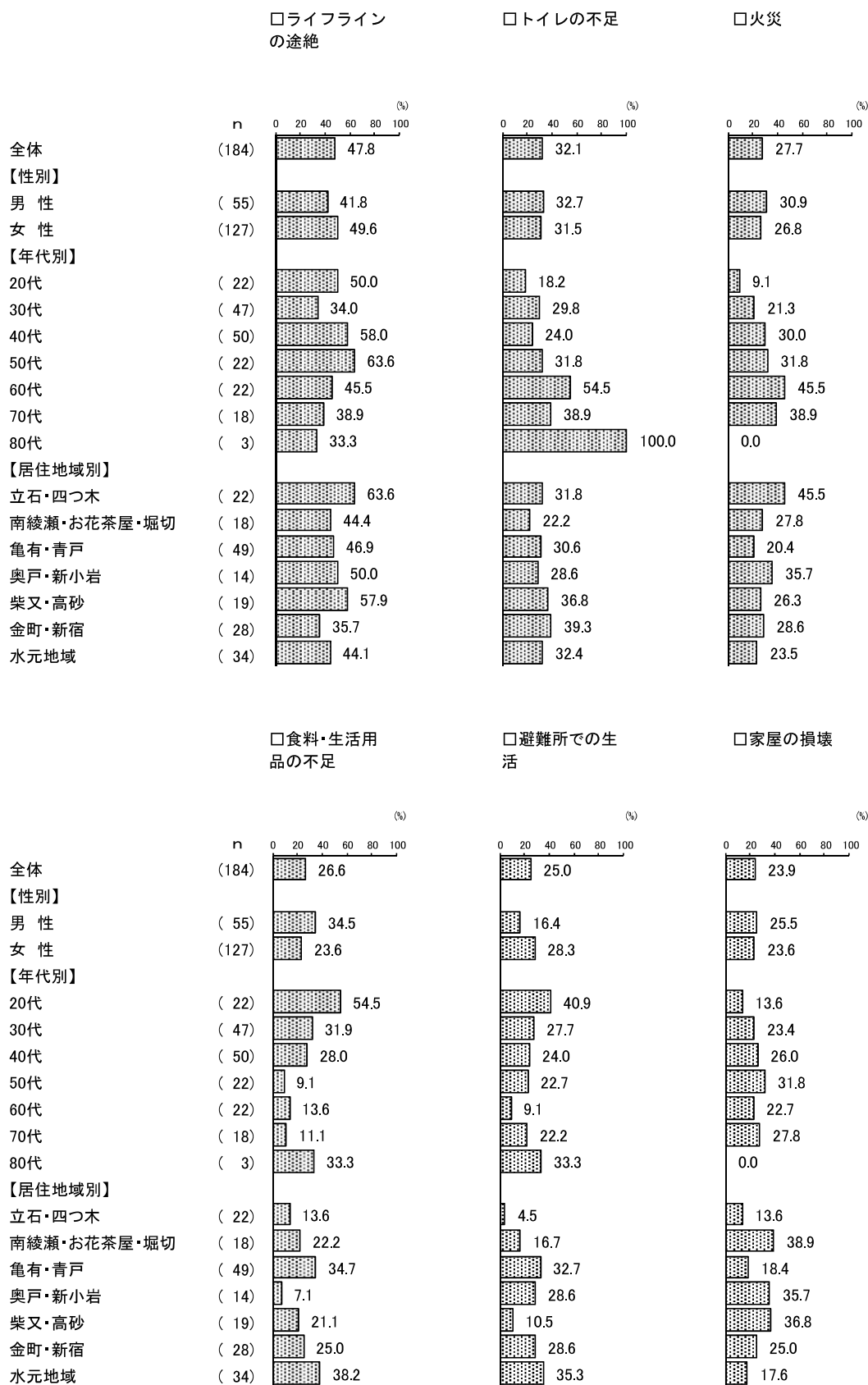
災害時に心配なことは、「ライフラインの途絶」が47.8%で最も高く、次いで「トイレの不足」が32.1%、「食料・生活用品の不足」が27.7%、「火災」が26.6%、「家屋の損壊」が25.0%となっている。

図表-12 災害時に心配なこと（全体）



属性別でみると、「ライフラインの途絶」は50代で63.6%と最も高くなっている。

図表-13 災害時に心配なこと（性別・年代別・居住地域別—上位6項目）



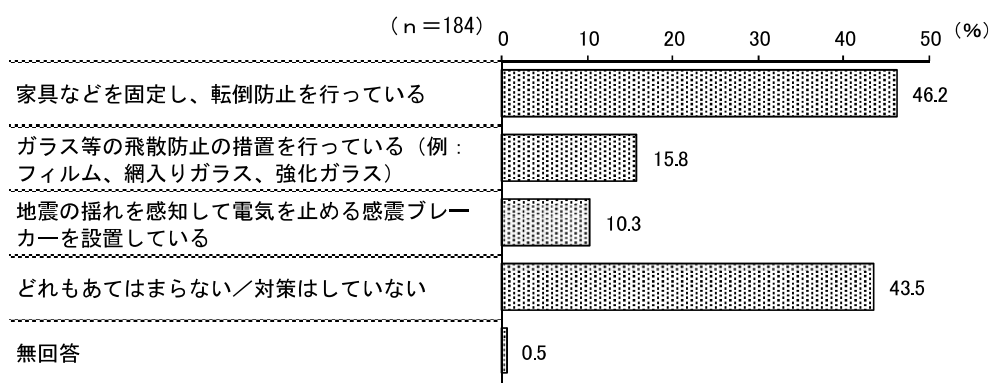
## (7) 家庭での地震対策

問9 家庭での地震対策をしていますか（○はいくつでも）。

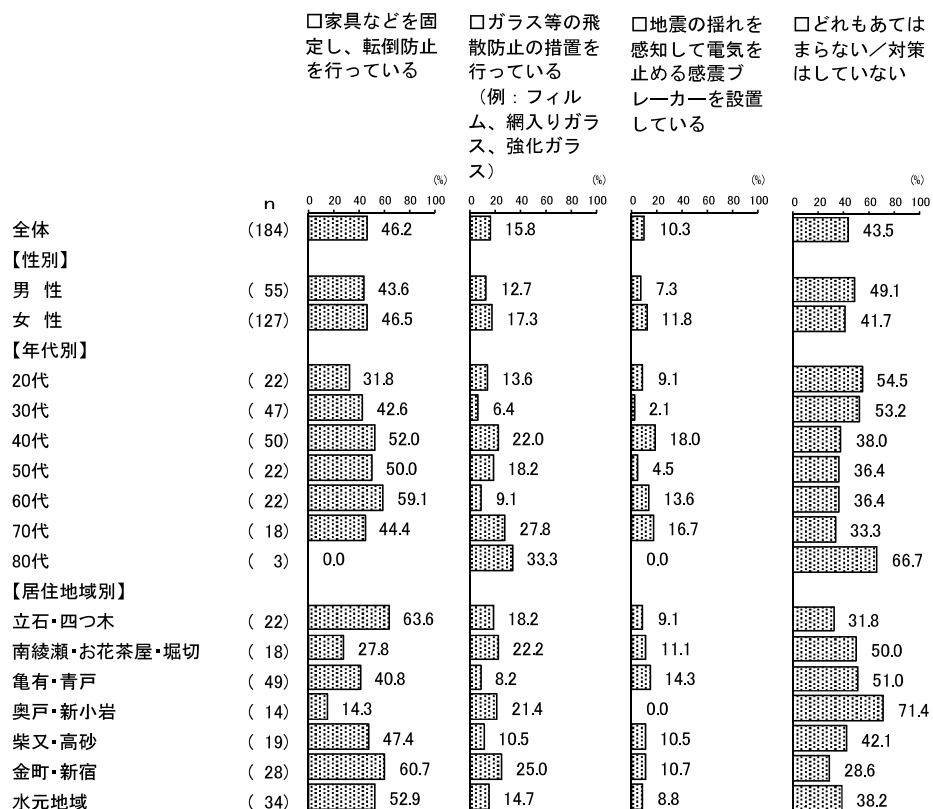
家庭での地震対策では、「家具などを固定し、転倒防止を行っている」が46.2%で最も高く、次いで「ガラス等の飛散防止の措置を行っている（例：フィルム、網入りガラス、強化ガラス）」が15.8%、「地震の揺れを感知して電気を止める感震ブレーカーを設置している」が10.3%となっている。一方「どれもあてはまらない／対策はしていない」は43.5%となっている。

属性別に見ると、60代で「家具などを固定し、転倒防止を行っている」が59.1%と最も高くなっている。

図表-14 家庭での地震対策（全体）



図表-15 家庭での地震対策（性別・年代別・居住地域別）



(8) 地震発災時の避難方法の認知

II 地震発災時の避難方法について

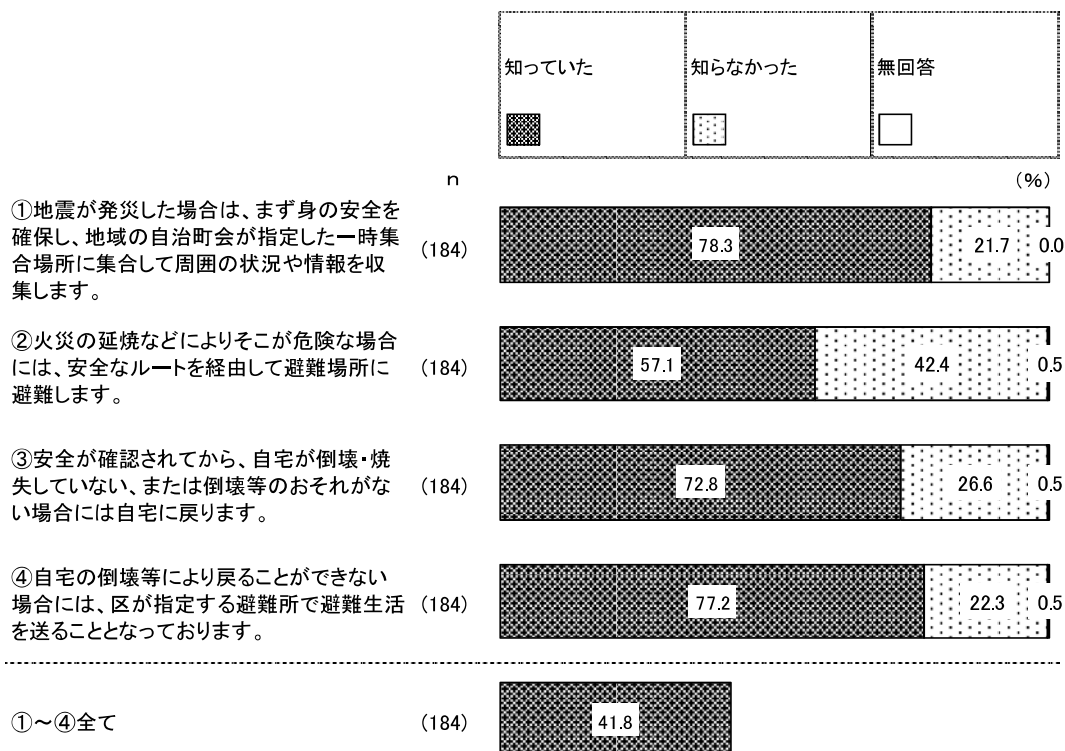
地震が発災した場合は、①まず身の安全を確保し、地域の自治町会が指定した一時集合場所に集合して周囲の状況や情報を収集します。②火災の延焼などによりそこが危険な場合には、安全なルートを経由して避難場所に避難します。③安全が確認されてから、自宅が倒壊・焼失していない、または倒壊等のおそれがない場合には自宅に戻ります。④自宅の倒壊等により戻ることができない場合には、区が指定する避難所で避難生活を送ることとなっております。

問10 上記の「地震発災時の避難方法」の説明について、各部分をご存知でしたか（○はそれぞれ1つ）。

地震発災時の避難方法の認知は、「①地震が発災した場合は、まず身の安全を確保し、地域の自治町会が指定した一時集合場所に集合して周囲の状況や情報を収集します。」が78.3%、「②火災の延焼などによりそこが危険な場合には、安全なルートを経由して避難場所に避難します。」が57.1%、「③安全が確認されてから、自宅が倒壊・焼失していない、または倒壊等のおそれがない場合には自宅に戻ります。」が72.8%、「④自宅の倒壊等により戻ることができない場合には、区が指定する避難所で避難生活を送ることとなっております。」が77.2%となっている。

ただし、①～④の説明すべてを「知っていた」とされた方は41.8%と半数に達していない。

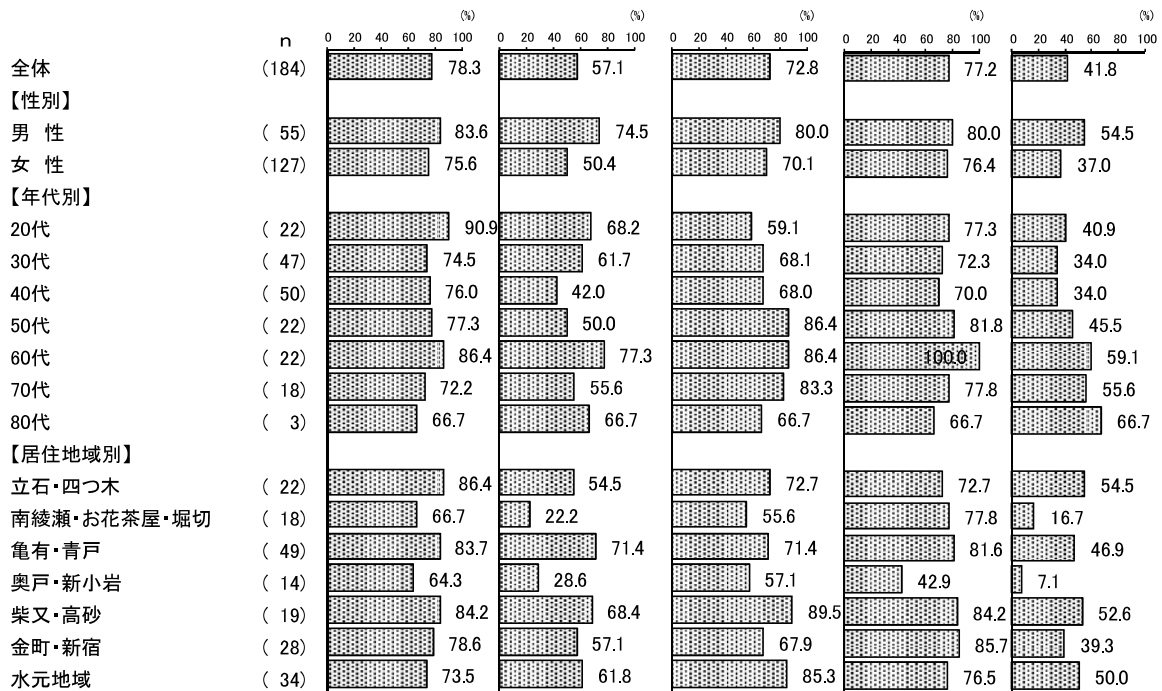
図表-16 地震発災時の避難方法（全体）



属性別でみると、「②火災の延焼などによりそこが危険な場合には、安全なルートを経由して避難場所に避難します。」は男性に比べ女性が特に低くなっている。

図表-17 地震発災時の避難方法（性別・年代別・居住地域別—「知っていた」割合）

- ①地震が発災した場合は、まず身の安全を確保し、地域の自治町会が指定した一時集合場所に集合して周囲の状況や情報を収集します。
- ②火災の延焼などによりそこが危険な場合には、安全なルートを経由して避難場所に避難します。
- ③安全が確認されてから、自宅が倒壊・焼失していない、または倒壊等のおそれがない場合には自宅に戻ります。
- ④自宅の倒壊等により戻ることができない場合には、区が指定する避難所で避難生活を送ることとなっております。
- ①～④の全てを知っていた。



## (9) 水害の避難方法の認知

### Ⅲ 水害発災時の避難方法について

区で想定される水害には、

- ア) 局地的かつ短時間に大雨(いわゆるゲリラ豪雨といわれるもの)が下水の排水能力を超えて降ることでもちが浸水する内水氾濫(ないすいはんらん)。
- イ) 台風や高潮等により河川の堤防が決壊し、浸水する外水氾濫(がいすいはんらん)があります。

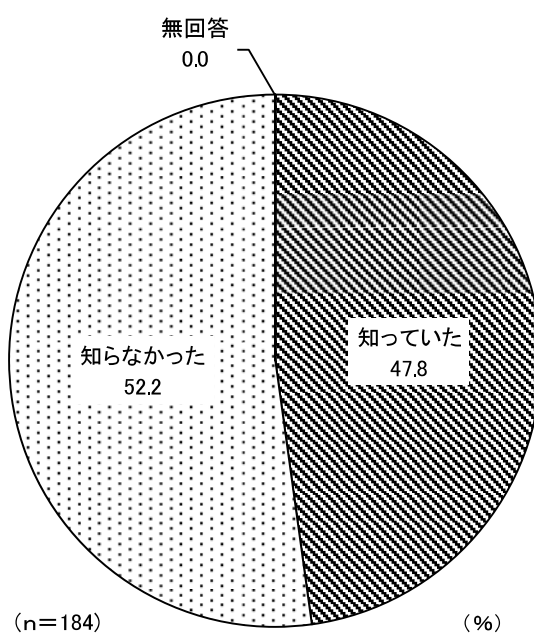
内水氾濫は、予測が難しく、突然に大雨が降る一方で、すぐに水が引くことから外出を控え、なるべく建物の上階に避難することとしております。

外水氾濫は、台風の進路が予測可能なことから、数日前から氾濫の可能性を予測でき、避難までの時間が確保できる一方で、長期間にわたって浸水してしまいます。このことから、区では氾濫する前に浸水しない地域への避難を呼びかけます。

問11 水害の避難方法をご存知でしたか (○は1つ)。

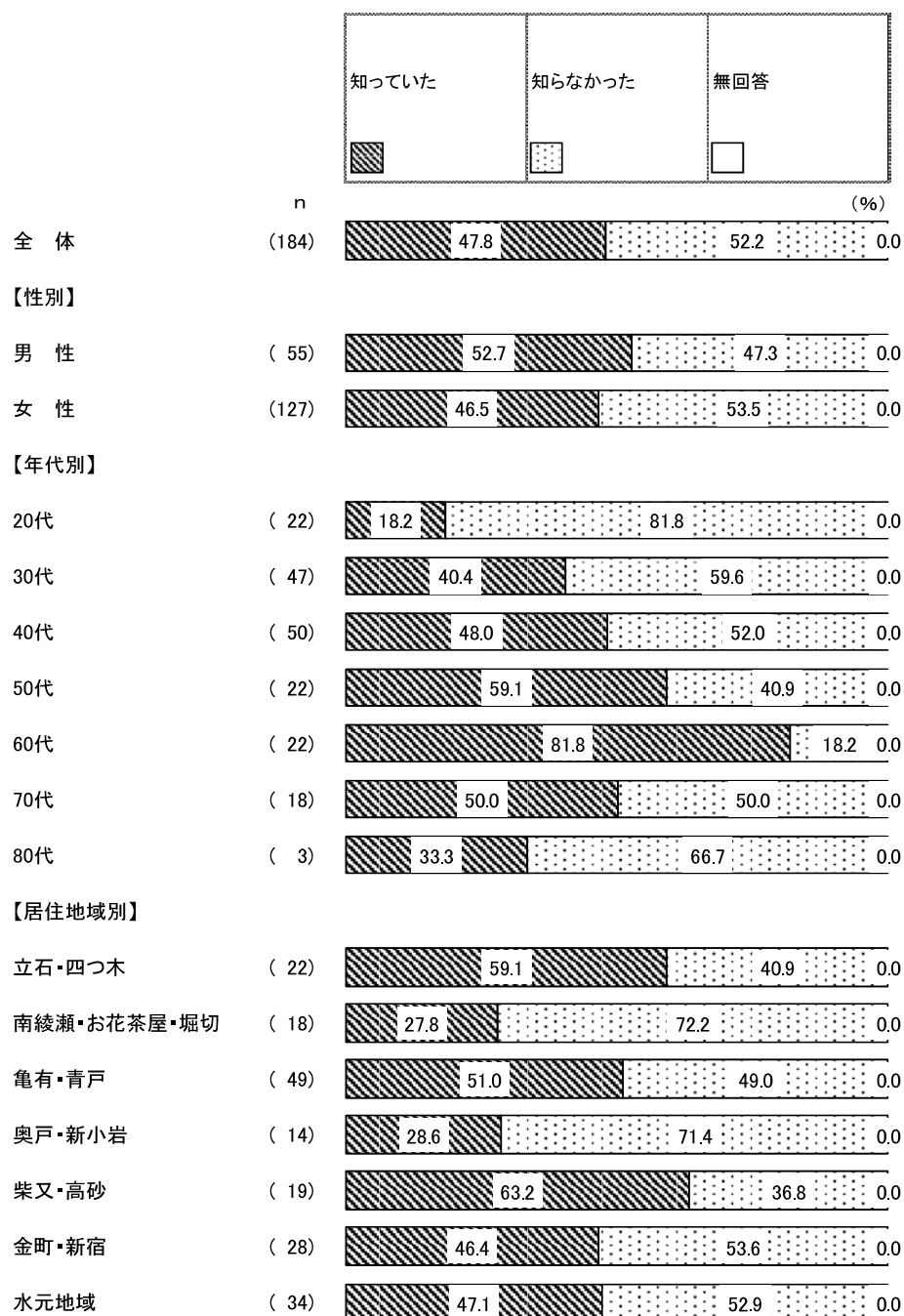
水害の避難方法の認知では、「知っていた」が47.8%となっており、「知らなかった」(52.2%)を下回る結果となっている。

図表-18 水害の避難方法 (全体)



属性別で見ると、60代では「知っていた」の割合が81.8%と最も高くなっている。一方、20代では「知っていた」の割合が18.2%と2割に満たない。

図表-19 水害の避難方法（性別・年代別・居住地域別）





## (10) 災害情報の入手方法

### IV 災害情報の入手方法について

発災時には正確な情報を入手することが迅速な避難行動につながります。

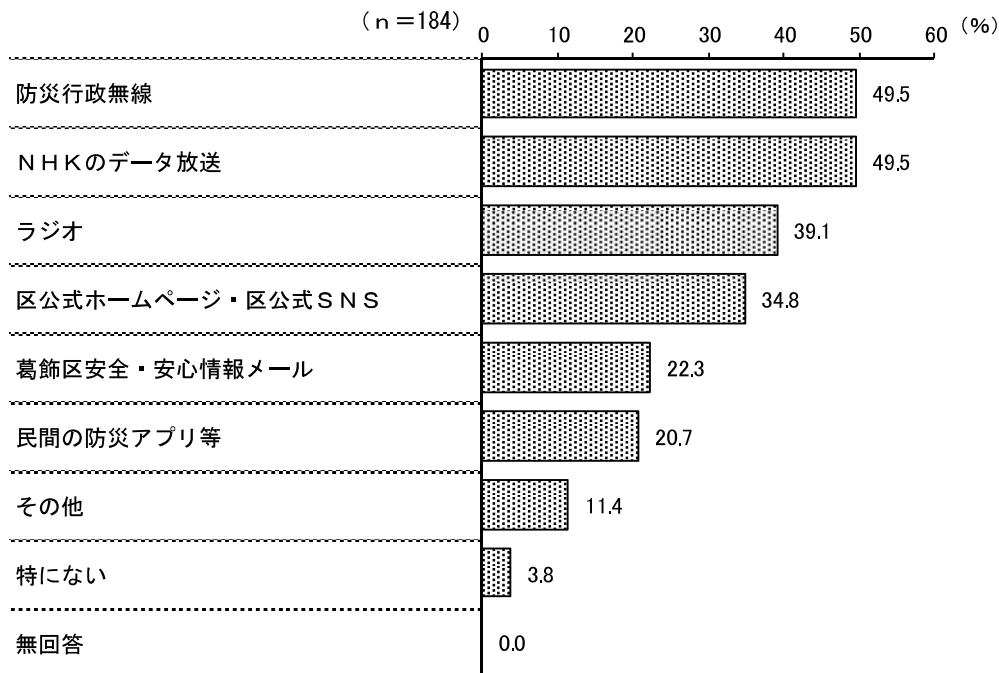
区では防災行政無線などで皆様に災害情報をお伝えしますが、近年の住宅の遮音性の向上により屋内では避難情報の内容が聞き取りづらいという声が多くあります。

そこで区では避難情報をサイレンでお知らせし、サイレンが聞こえたらテレビやラジオ等で詳細な情報を入手することを防災訓練や自治町会を通じて周知しています。

問12 災害情報は何で入手しますか（〇はいくつでも）。

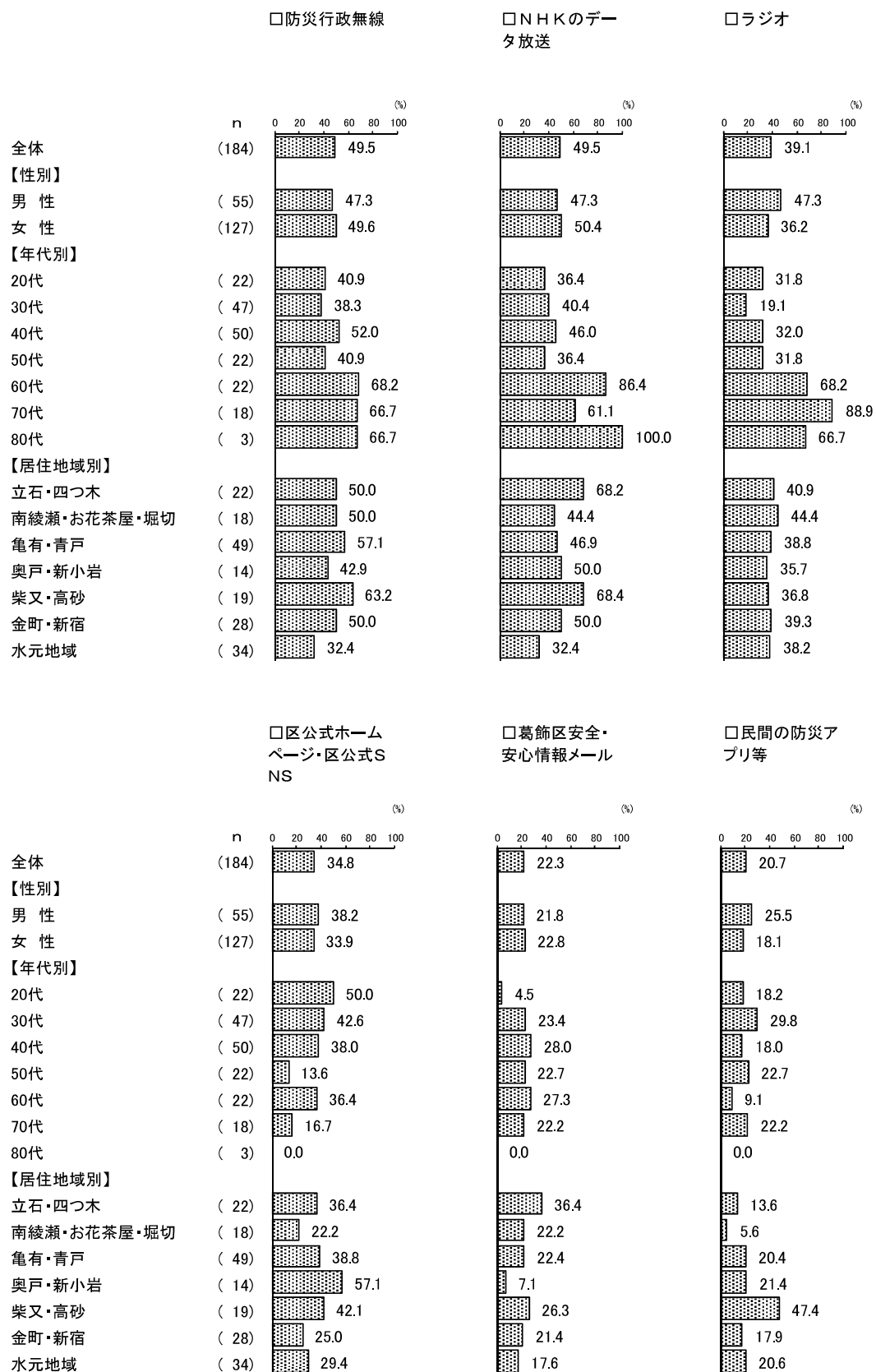
災害情報の入手方法では、「防災行政無線」と「NHKのデータ放送」が共に49.5%と最も高く、次いで、「ラジオ」が39.1%、「区公式ホームページ・区公式SNS」が34.8%となっている。

図表-20 災害情報の入手方法（全体）



属性別で見ると、「防災行政無線」、「NHKのデータ放送」、「ラジオ」は、60代以上で高くなっている。一方「区公式ホームページ・区公式SNS」は20代で50.0%と最も高くなっている。

図表-21 災害情報の入手方法（性別・年代別・居住地域別—上位6項目）



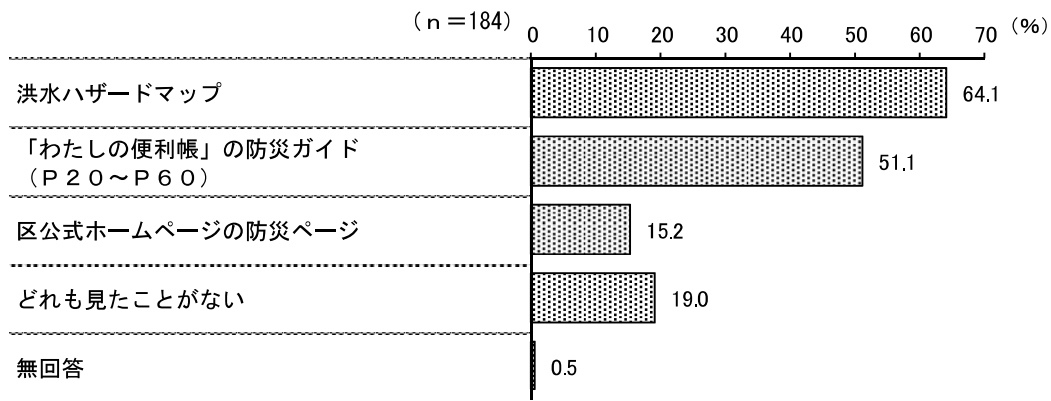
## (11) 防災情報の閲覧経験

**問13** 区では災害に関する取り組みなどを広報かつしか等で周知をしておりますが、次の冊子等をご覧になったことはありますか（〇はいくつでも）。

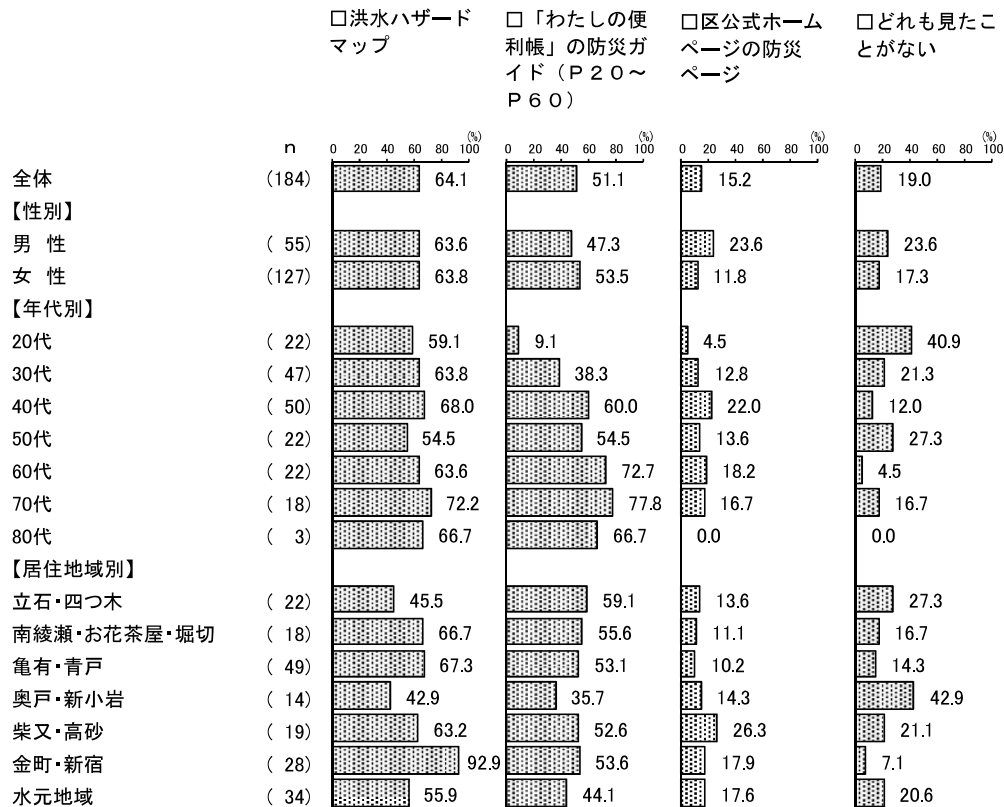
防災情報の閲覧経験は、「洪水ハザードマップ」が64.1%と最も高く、次いで「わたしの便利帳」の防災ガイド（P20～P60）が51.1%、「区公式ホームページの防災ページ」が15.2%となっている。一方で「どれも見たことがない」が19.0%となっている。

属性別に見ると、「洪水ハザードマップ」と「わたしの便利帳」の防災ガイド（P20～P60）は70代でそれぞれ最も高くなっている。

図表-22 防災情報の閲覧経験（全体）



図表-23 防災情報の閲覧経験（性別・年代別・居住地域別）



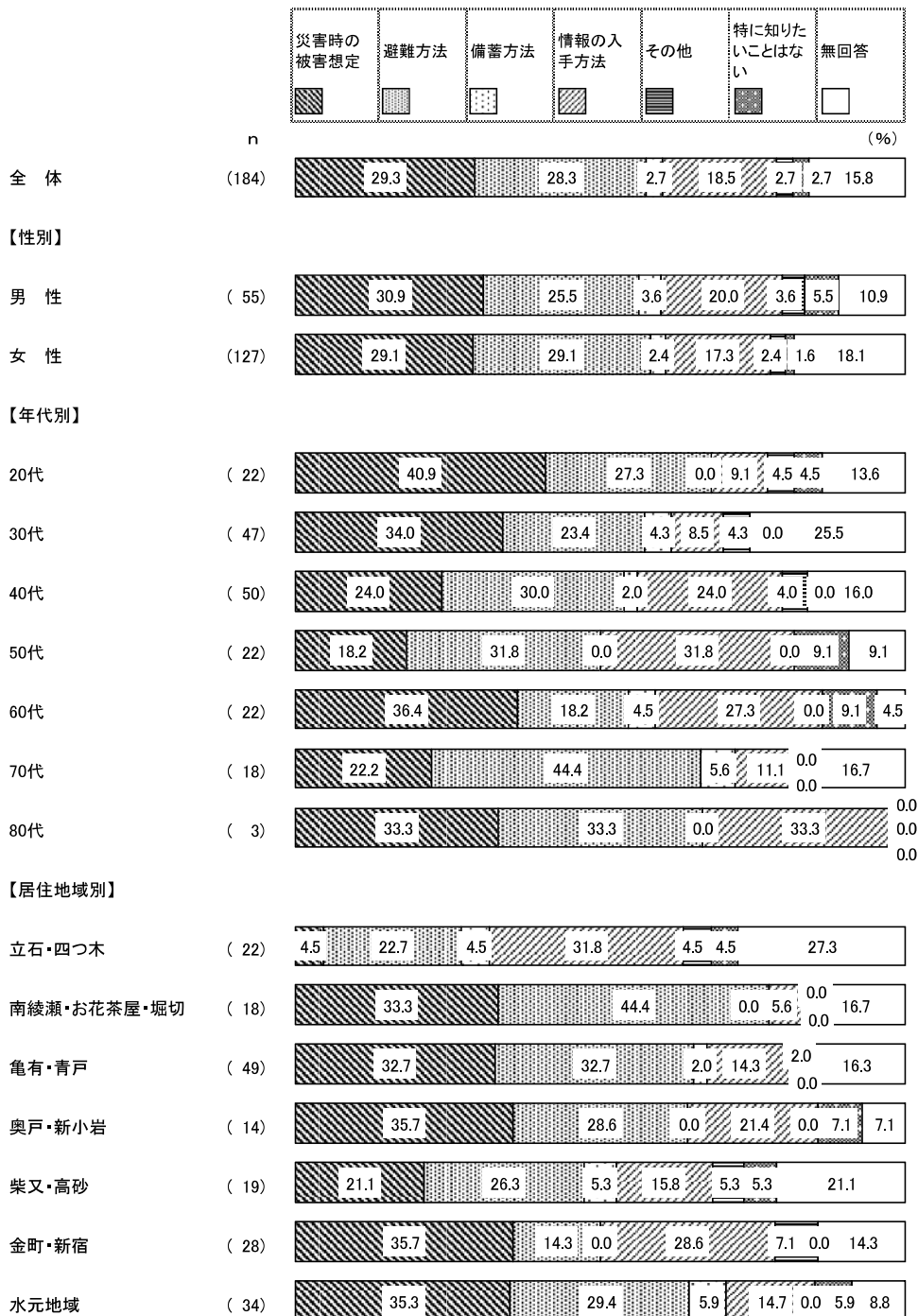
## (12) 災害に関することで特に知りたいこと

問14 災害に関することについて特に知りたいことは何ですか（○は1つ）。

災害に関することで特に知りたいことは、「災害時の被害想定」が29.3%と最も高く、次いで「避難方法」が28.3%、「情報の入手方法」が18.5%となっている。

属性別に見ると、「災害時の被害想定」は20代で40.9%と最も高く、「避難方法」は70代で44.4%と最も高くなっている。

図表-24 災害に関することで特に知りたいこと（全体）



### (13) 防災訓練の参加経験

#### V 防災訓練について

日頃から訓練を重ね、いざというときに備えておくことは命や財産を守るためには大切です。

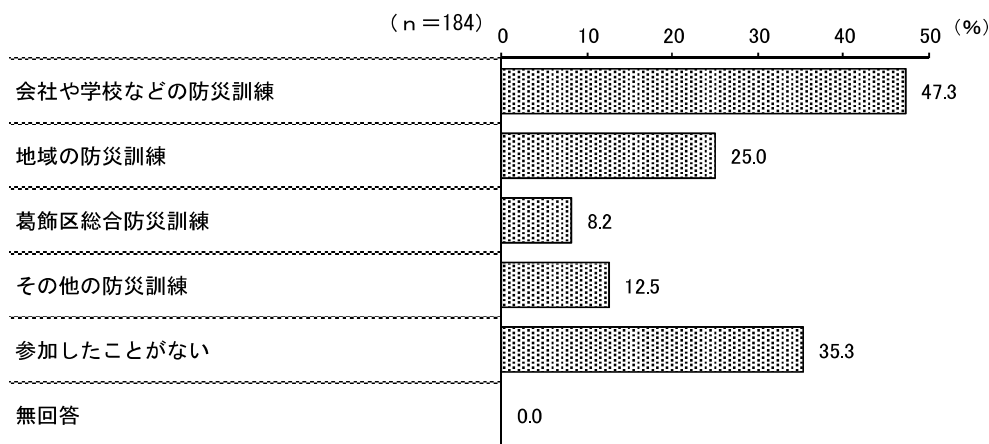
お住まいの地域の自治町会などでは防災訓練を実施しております。

また、区では秋に区民・警察・消防・自衛隊などの防災関係機関と連携した総合防災訓練を実施しております。

問15 次の訓練に参加したことはありますか（〇はいくつでも）。

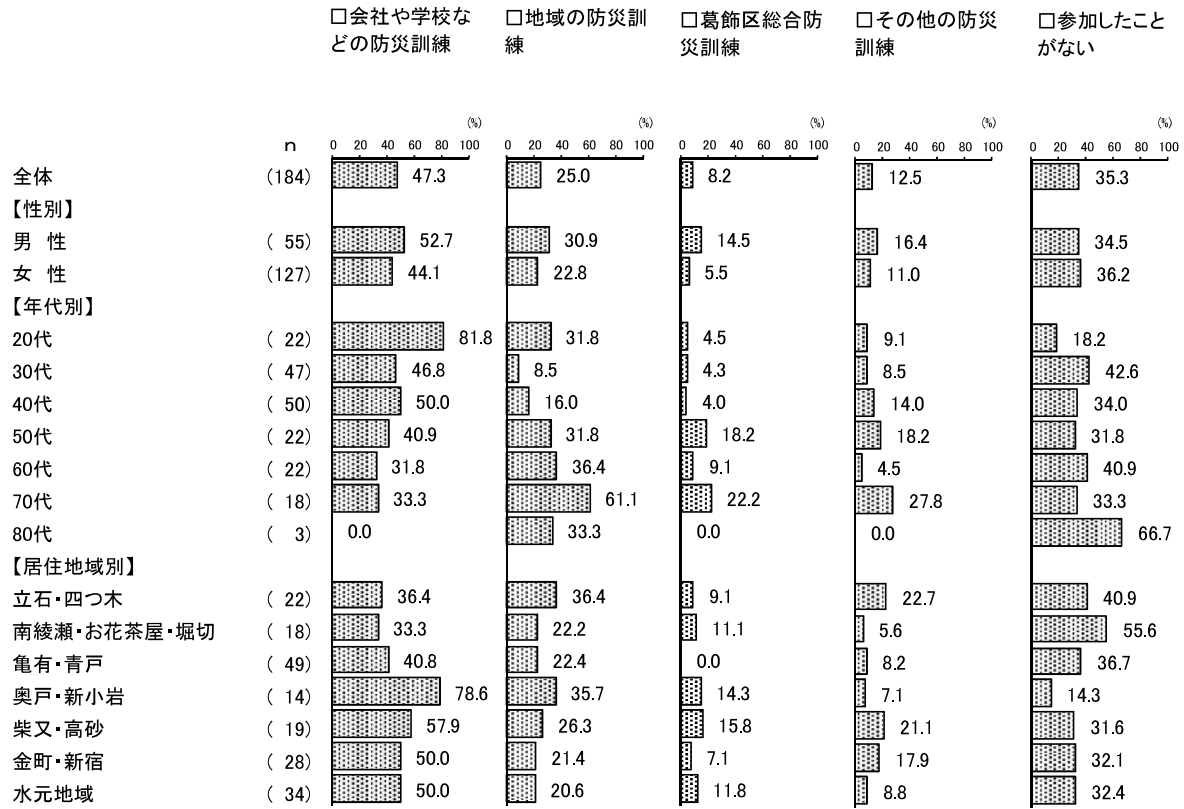
防災訓練の参加経験では、「会社や学校などの防災訓練」が47.3%と最も高く、次いで「地域の防災訓練」が25.0%、「葛飾区総合防災訓練」が8.2%となっている。一方「参加したことがない」が35.3%となっている。

図表-25 防災訓練の参加経験（全体）



属性別に見ると、「会社や学校などの防災訓練」は20代で81.8%、「地域の防災訓練」は70代で61.1%とそれぞれ最も高くなっている。

図表-26 防災訓練の参加経験（性別・年代別・居住地域別）



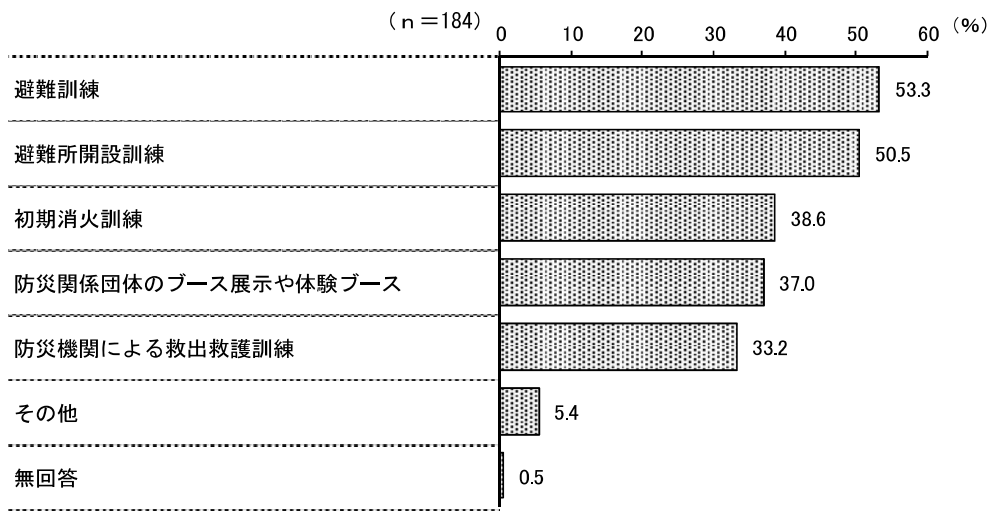
(14) 希望する訓練内容

問16 どのような内容の訓練を望みますか (〇はいくつでも)。

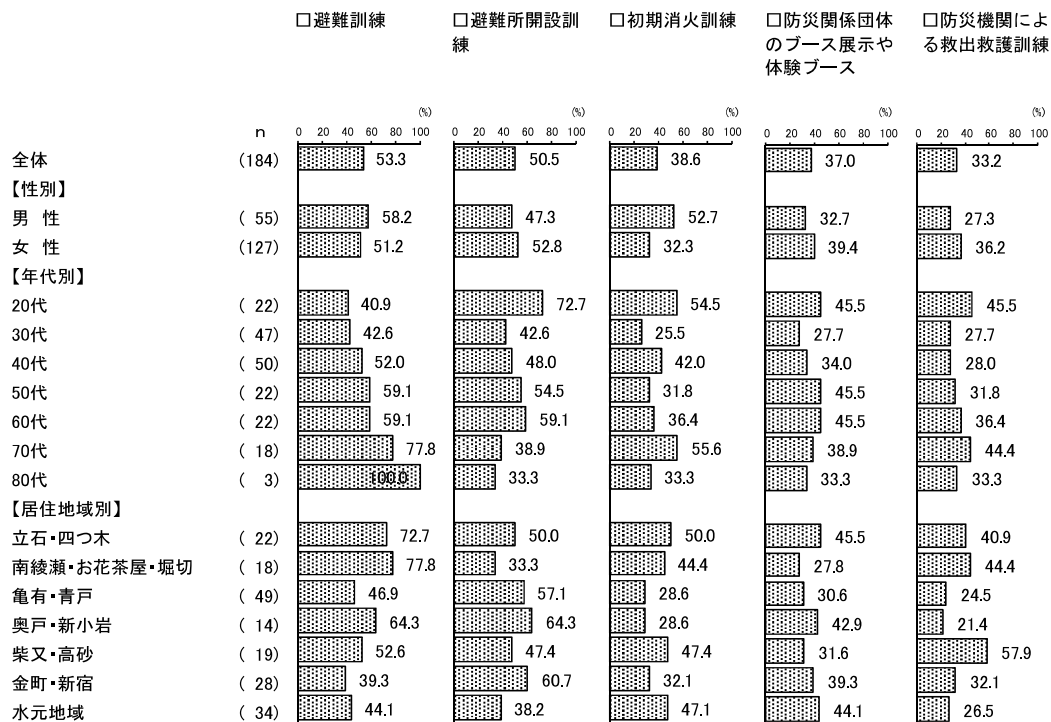
希望する訓練内容では、「避難訓練」が53.3%で最も高く、次いで「避難所開設訓練」が50.5%、「初期消火訓練」が38.6%、「防災関係団体のブース展示や体験ブース」が37.0%、「防災機関による救出救護訓練」が33.2%となっている。

属性別に見ると、「避難訓練」は70代、80代で高く、「避難所開設訓練」は20代で72.7%と最も高くなっている。

図表-27 希望する訓練内容 (全体)



図表-28 希望する訓練内容 (性別・年代別・居住地域別—上位5項目)



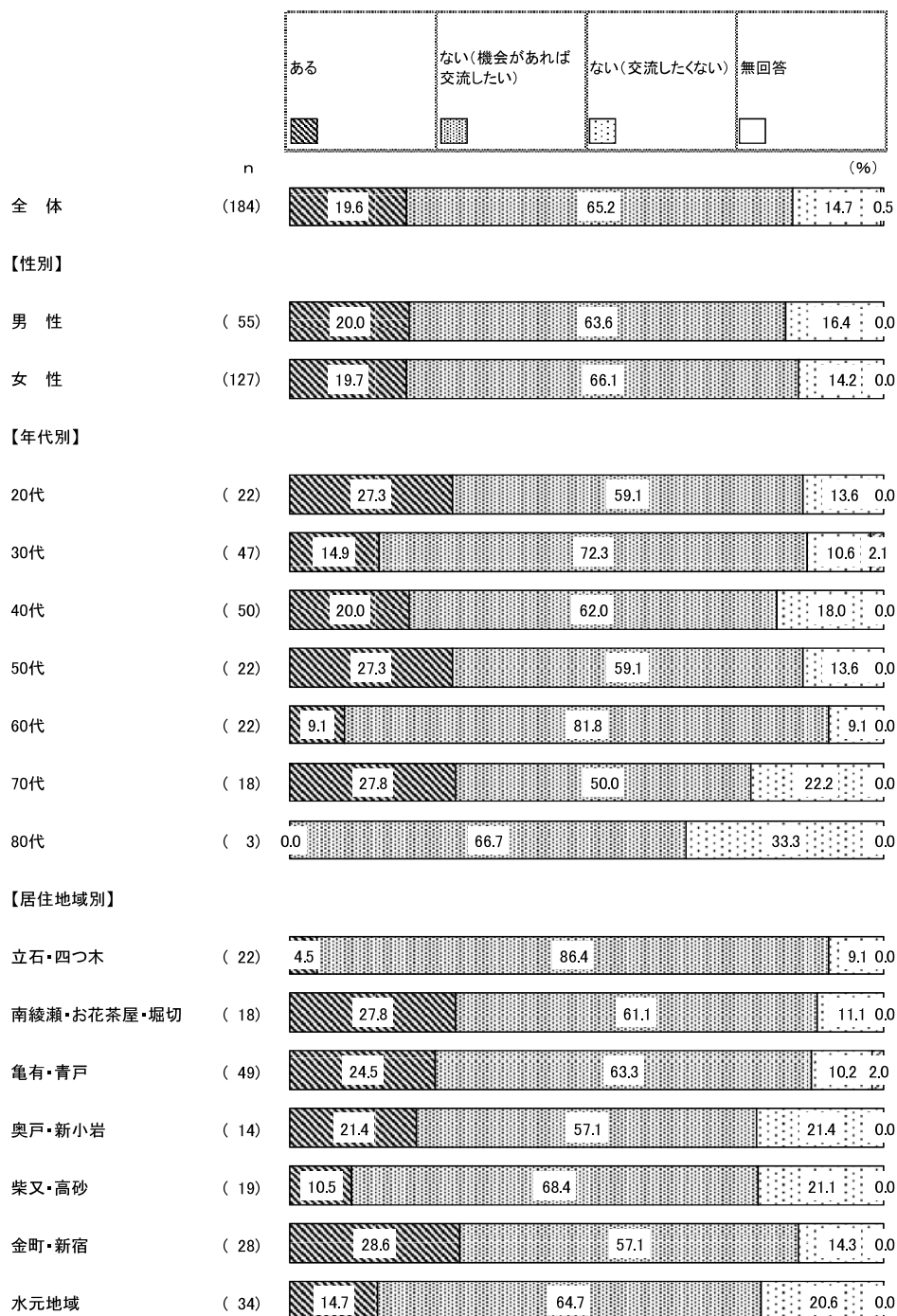
### 3. 多文化共生社会の推進について

#### (1) 外国人との交流機会

**問17** あなたは、日本で、日常的に外国人（区民）と交流する機会がありますか。また、機会がない場合、交流したいと思いますか（○は1つ）。

外国人との交流機会については、「ある」が19.6%、「ない（機会があれば交流したい）」が65.2%、「ない（交流したくない）」が14.7%となっている。

図表-29 外国人との交流機会（全体・性別・年代別・居住地域別）





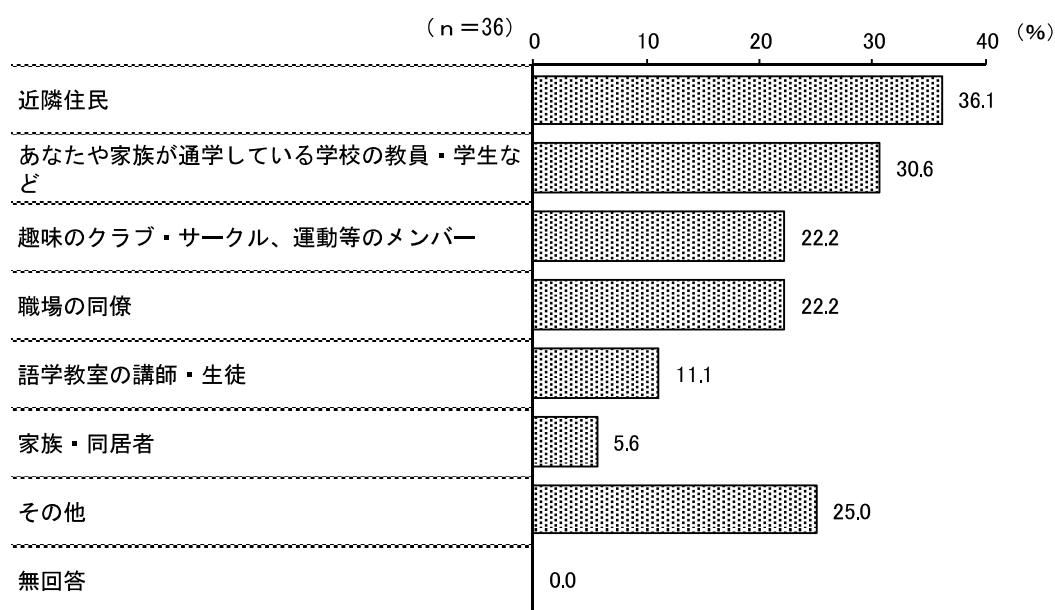
## (2) 日常的に交流している外国人

(問17で「1. ある」を選択した方にお伺いします。)

問18 日常的に交流する外国人(区民)はどのような方ですか(〇はいくつでも)。

日常的に交流している外国人は、「近隣住民」が36.1%と最も高く、「あなたや家族が通学している学校の教員・学生など」が30.6%、「趣味のクラブ・サークル、運動等のメンバー」「職場の同僚」が共に22.2%となっている。

図表-30 交流している外国人(全体)



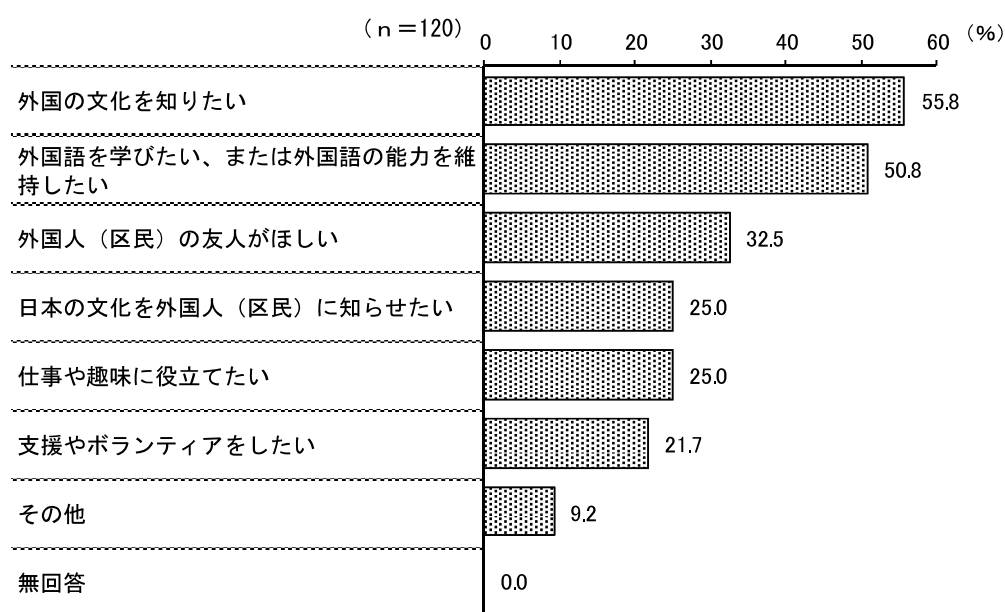
### (3) 外国人と交流したい理由

(問17で「2. ない(機会があれば交流したい)」を選択した方にお伺いします。)

問19 なぜ交流したいと考えていますか(○はいくつでも)。

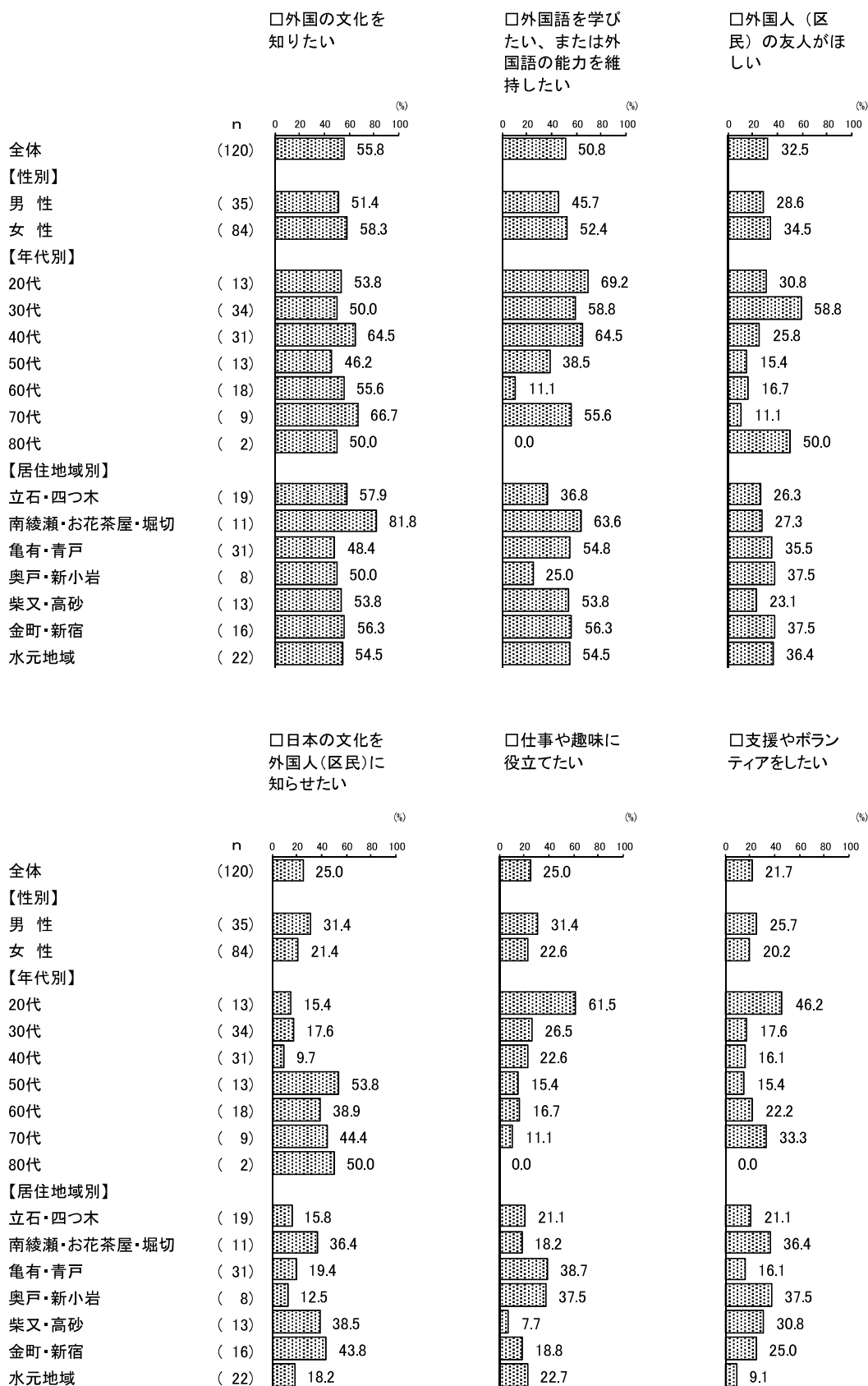
外国人と交流したい理由は、「外国の文化を知りたい」が55.8%と最も高く、次いで「外国語を学びたい、または外国語の能力を維持したい」が50.8%、「外国人(区民)の友人がほしい」が32.5%となっている。

図表-31 外国人と交流したい理由(全体)



属性別に見ると、「外国人（区民）の友人がほしい」は30代で58.8%と最も高くなっている。

図表-32 外国人と交流したい理由（性別・年代別・居住地域別—上位6項目）

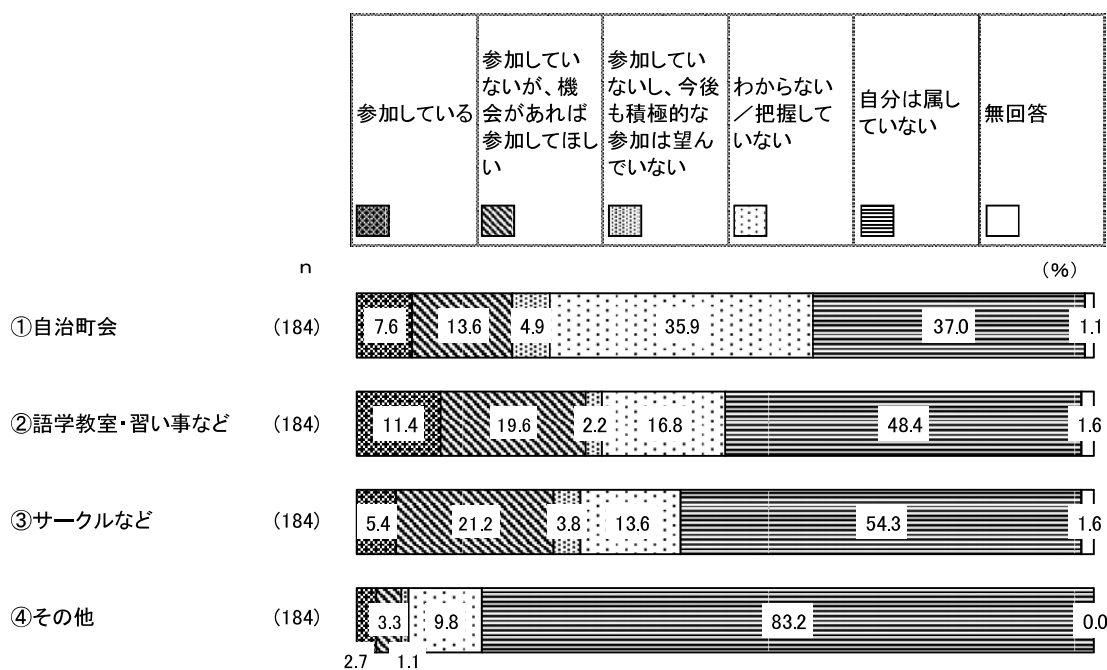


#### (4) 地域コミュニティやグループへの外国人の参加状況

**問 20** あなたが属する地域コミュニティやグループに、外国人（区民）は参加していますか。属している地域コミュニティやグループごとにお答えください（○は横方向にそれぞれ1つ）。

地域コミュニティやグループへの外国人の参加状況では、「参加している」が「①自治町会」では7.6%、「②語学教室・習い事など」では11.4%、「③サークルなど」では5.4%となっている。また、「自分は属していない」の回答が①～④それぞれで最も多くを占めている。

図表-33 地域コミュニティやグループへの外国人の参加状況（全体）

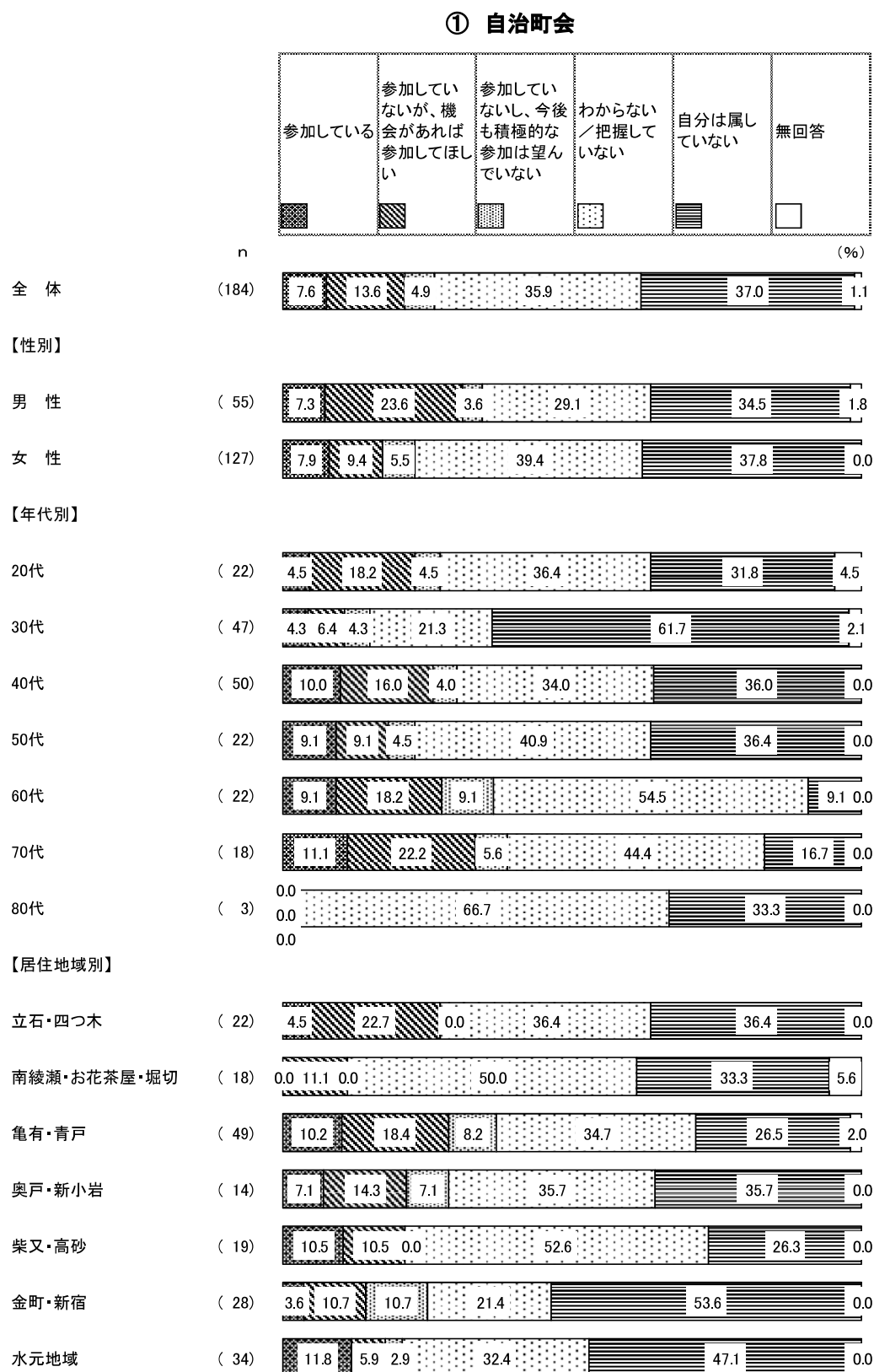


#### (④その他の詳細)

- 消防団。
- 母親の住む団地の月1回のそうじ。
- 自治町会役員。
- 高齢者の為の交流場。
- 学校。
- 個人的な事に参加しています。
- NPO 法人
- 東洋人は外見が日本人と同じで日本名通称では不明。
- 自分は属していない。

属性別に見ると、男性で「参加していないが、機会があれば参加してほしい」が23.6%と高くなっている。

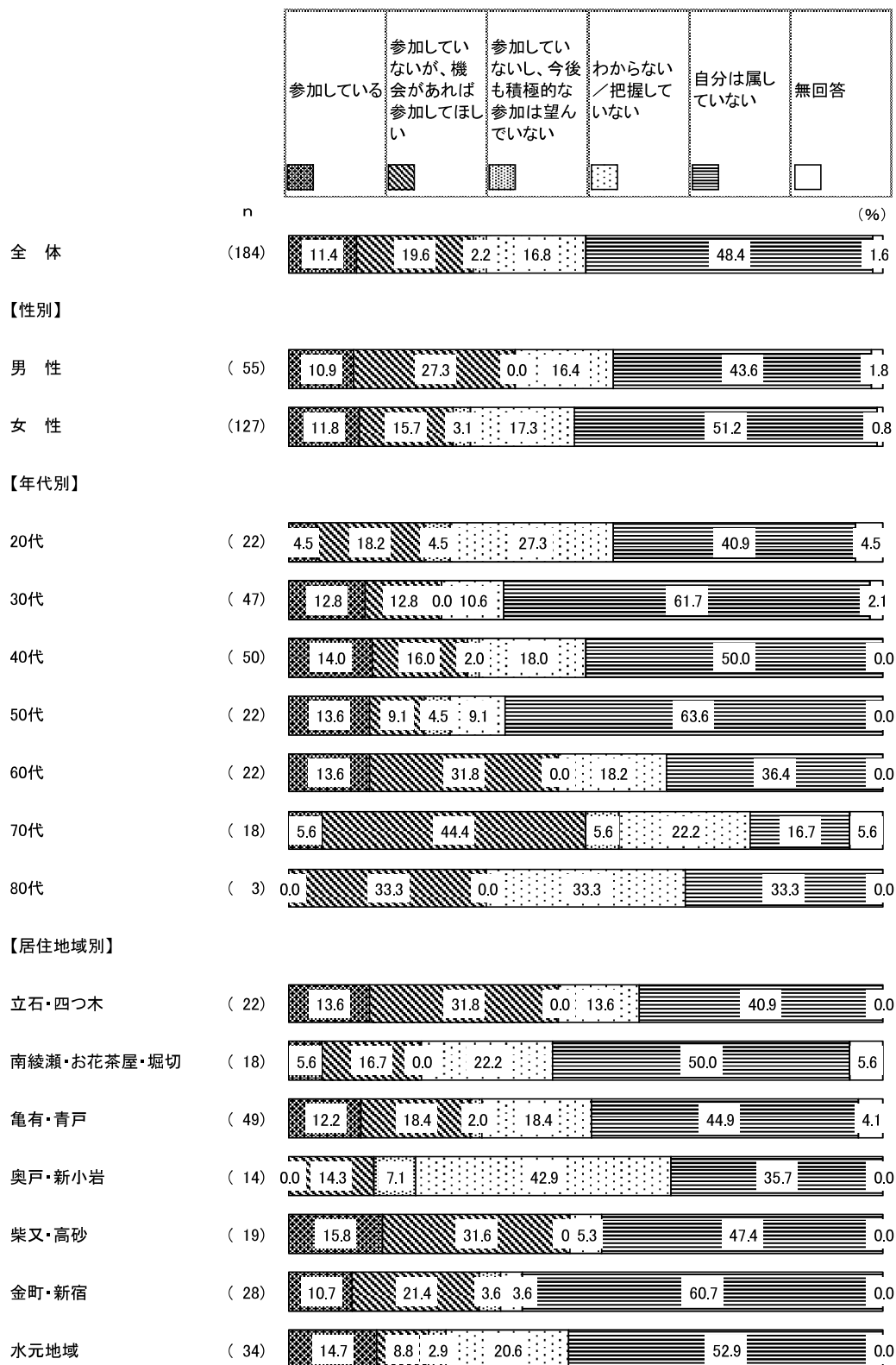
図表-34 地域コミュニティやグループへの外国人の参加状況（性別・年代別・居住地域別）



属性別に見ると、70代で「参加していないが、機会があれば参加してほしい」が44.4%と最も高くなっている。

図表-35 地域コミュニティやグループへの外国人の参加状況（性別・年代別・居住地域別）

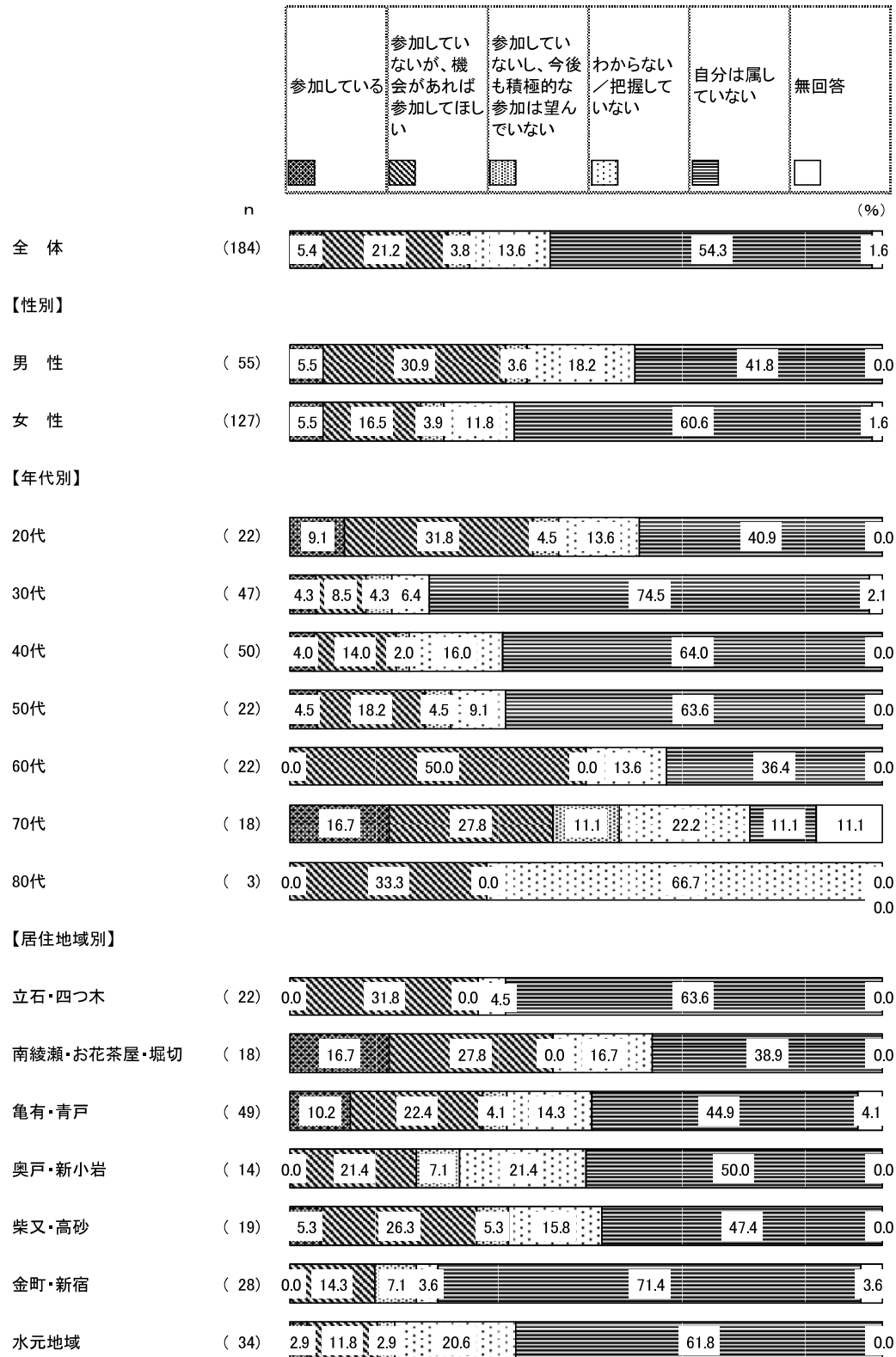
② 語学教室・習い事など



属性別に見ると、60代で「参加していないが、機会があれば参加してほしい」が50.0%と最も高くなっている。

図表-36 地域コミュニティやグループへの外国人の参加状況（性別・年代別・居住地域別）

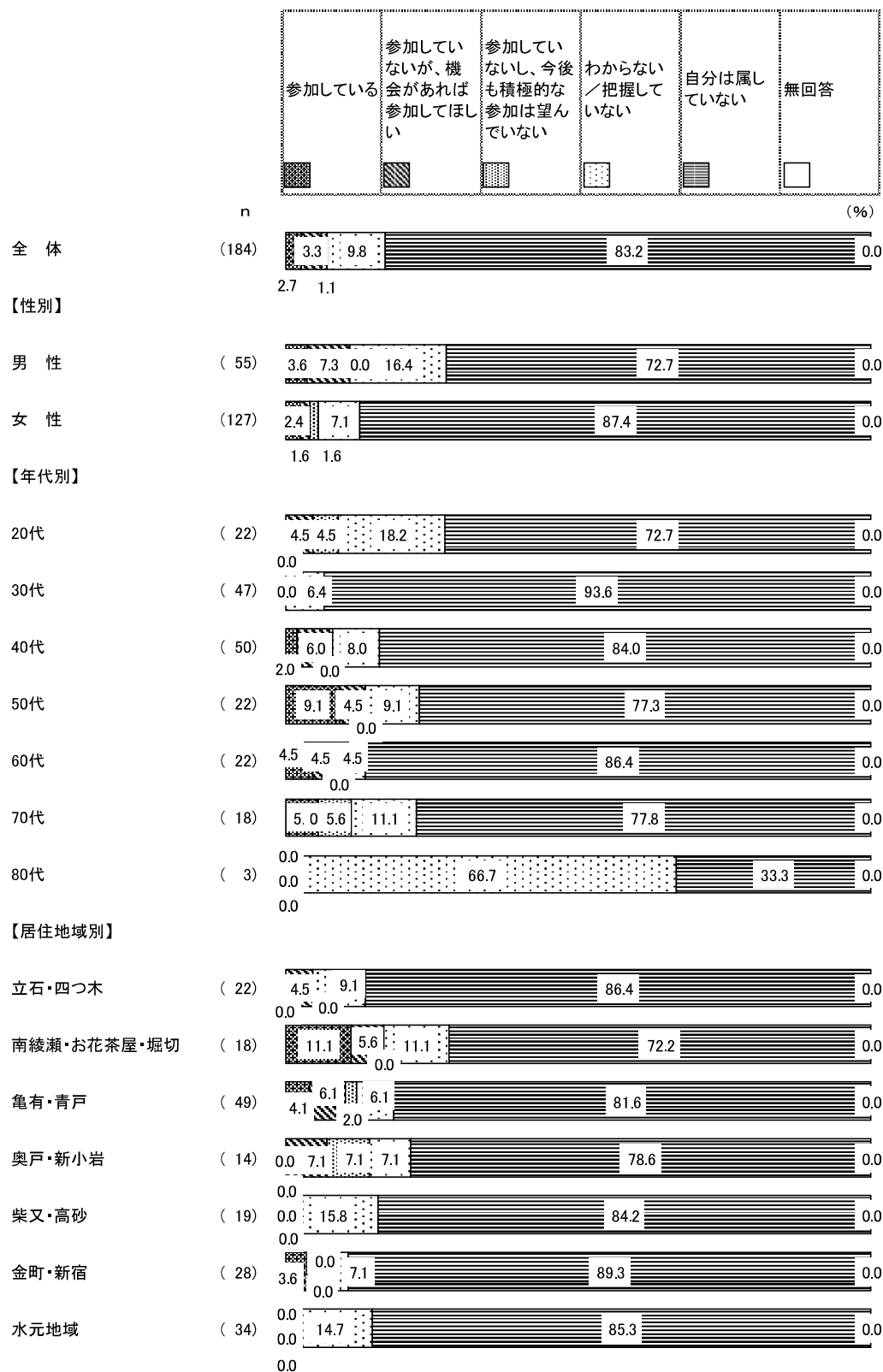
③ サークルなど



属性別で特に目立った差は見られない。

図表-37 地域コミュニティやグループへの外国人の参加状況（性別・年代別・居住地域別）

④ その他





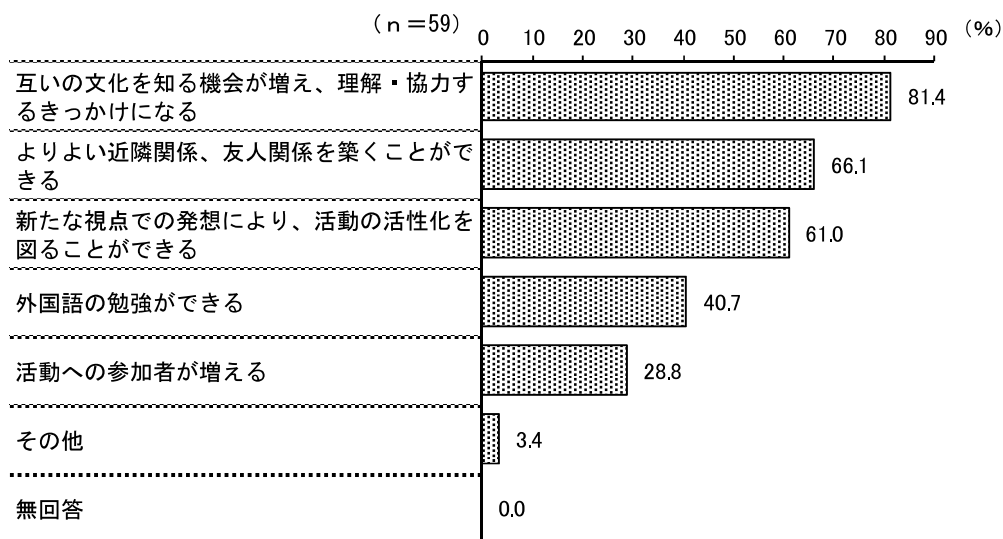
## (5) 外国人に参加してほしい理由

(問20の①～④のいずれかで「参加していないが、機会があれば参加してほしい」を選択した方にお伺いします。)

問21 なぜ参加してほしいと考えていますか (〇はいくつでも)。

外国人に参加してほしい理由としては、「互いの文化を知る機会が増え、理解・協力するきっかけになる」が81.4%と最も高く、「よりよい近隣関係、友人関係を築くことができる」が66.1%、「新たな視点での発想により、活動の活性化を図ることができる」が61.0%、「外国語の勉強ができる」が40.7%となっている。

図表-38 外国人に参加してほしい理由 (全体)



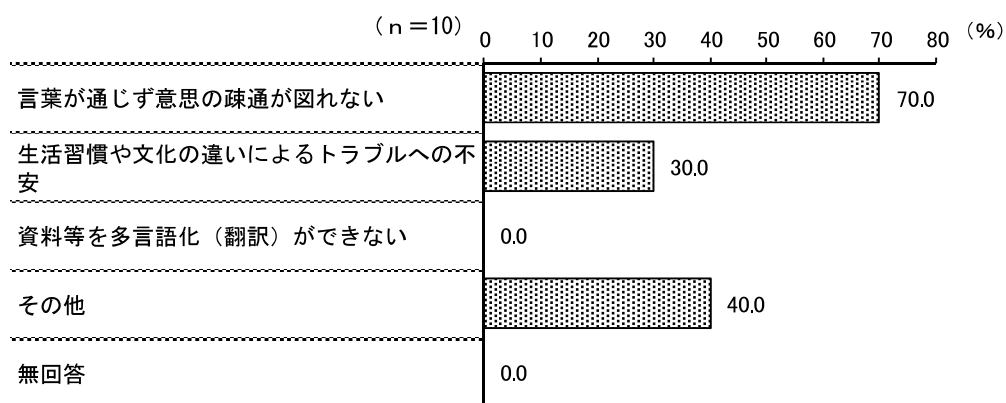
## (6) 外国人の参加を望んでいない理由

(問20の①～④のいずれかで「参加していないし、今後も積極的な参加は望んでいない」を選択した方にお伺いします。)

問22 なぜ望んでいないと考えていますか (〇はいくつでも)。

外国人の参加を望んでいない理由としては、「言葉が通じず意思の疎通が図れない」が70.0%と最も高く、次いで「生活習慣や文化の違いによるトラブルへの不安」が30.0%となっている。

図表-39 外国人の参加を望んでいない理由 (全体)



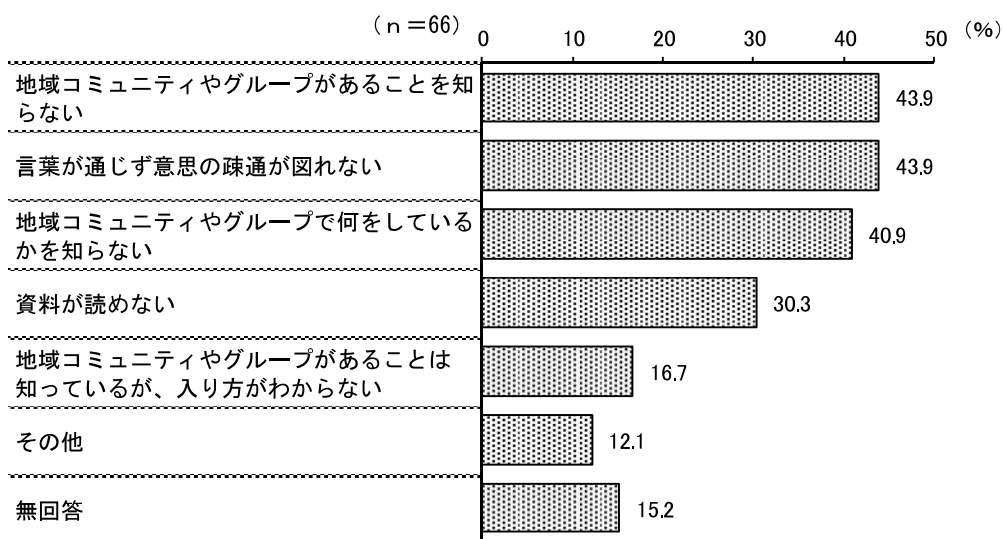
## (7) 外国人が参加していない理由

(問20の①～④のいずれかで「参加していないが、機会があれば参加してほしい」又は「参加していないし、今後も積極的な参加は望んでいない」を選択した方にお伺いします。)

**問23** あなたが属する地域コミュニティやグループに、外国人（区民）が参加していない理由はなんだと思いますか（〇はいくつでも）。

外国人が参加していない理由としては、「地域コミュニティやグループがあることを知らない」と「言葉が通じず意思の疎通が図れない」が共に43.9%と最も高く、次いで「地域コミュニティやグループで何をしているかを知らない」が40.9%、「資料が読めない」が30.3%となっている。

図表-40 外国人が参加していない理由（全体）

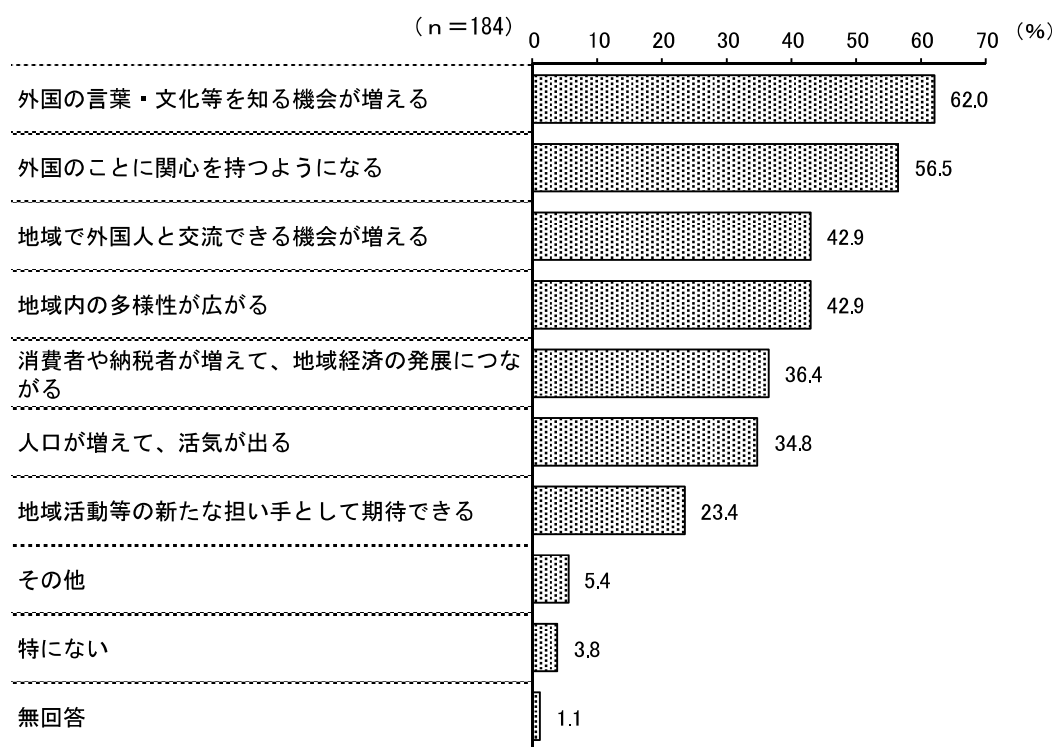


## (8) 地域に外国人が増えるメリット

問24 外国人（区民）が地域が増えることによるメリットはなんだと思いますか（〇はいくつでも）。

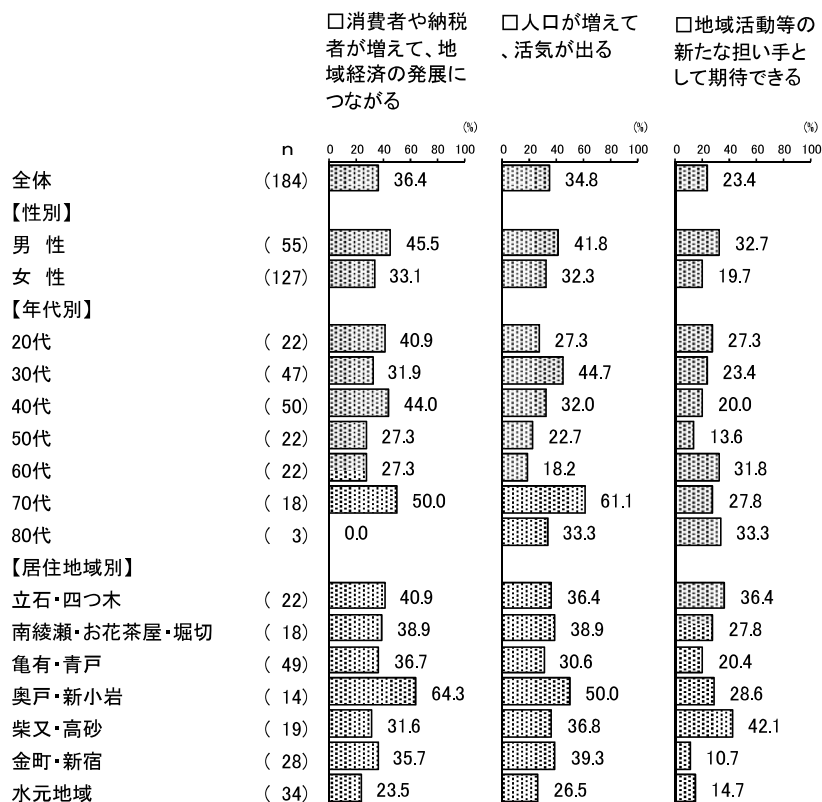
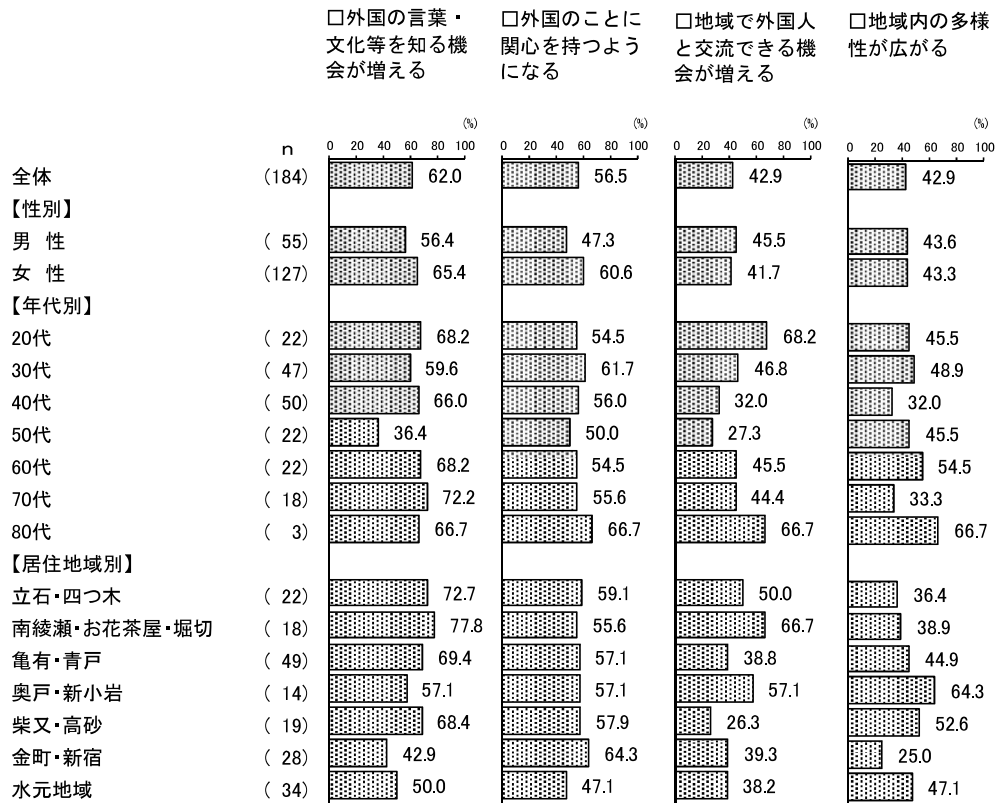
地域に外国人が増えるメリットでは、「外国の言葉・文化等を知る機会が増える」が62.0%と最も高く、次いで「外国のことに関心を持つようになる」が56.5%、「地域で外国人と交流できる機会が増える」と「地域内の多様性が広がる」が共に42.9%となっている。

図表-41 地域に外国人が増えるメリット（全体）



属性別に見ると、女性で「外国の言葉・文化等を知る機会が増える」「外国のことに興味を持つようになる」が高くなっている。

図表-42 地域に外国人が増えるメリット（性別・年代別・居住地域別—上位7項目）



## (9) 「やさしい日本語」の取組について

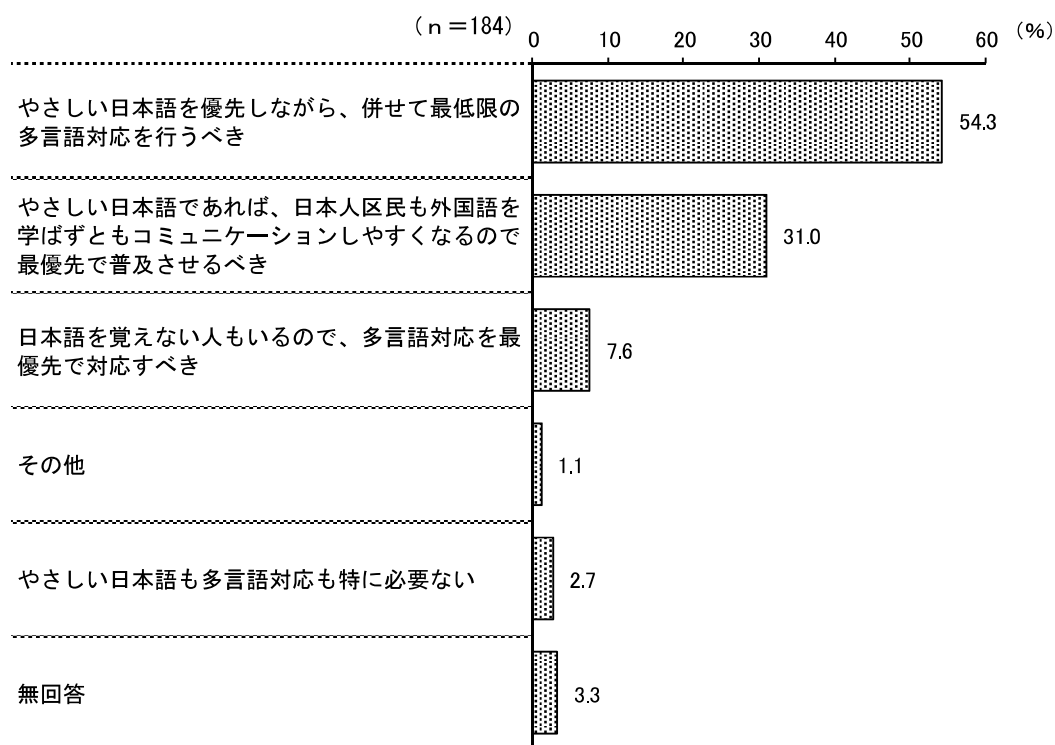
**問25** 外国人（区民）に向けた取組として、「やさしい日本語」（※）という取組があります。この取組について、以下の中から最もあてはまるものをお選びください。（○は1つ）。

※やさしい日本語とは、いつもの日本語を少し工夫し、日本語に慣れていない外国人（区民）にも理解しやすくした日本語です。国の調査結果では、外国人（区民）の約8割が日本語で何らかのコミュニケーションが図れると答えています。また、平仮名なら読めるという方も同程度います。

（例）「飲酒の習慣はありますか」→「毎日お酒を飲みますか」、「お仕事は何をなさっていますか」→「お仕事は何ですか」など。

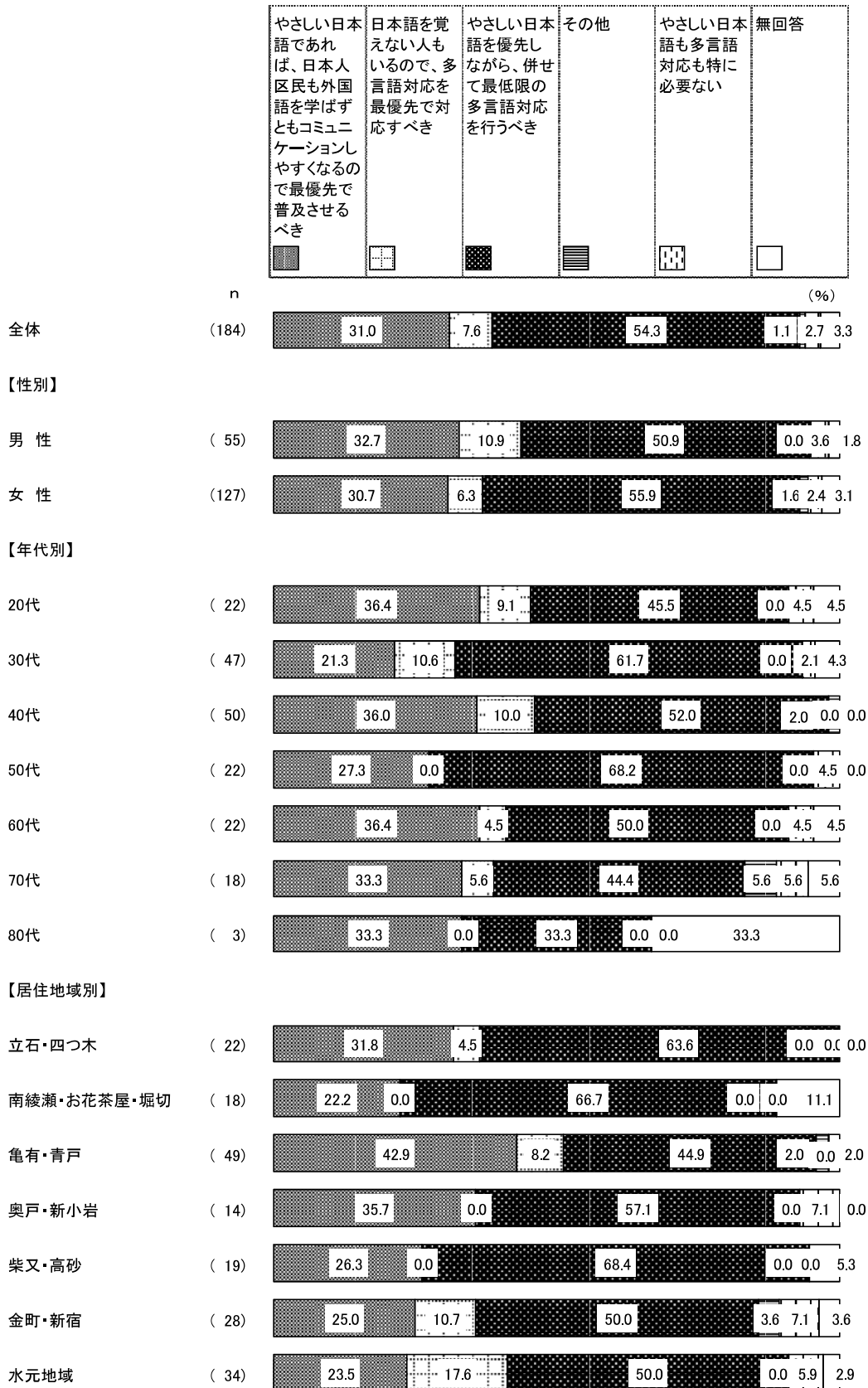
「やさしい日本語」の取組については、「やさしい日本語を優先しながら、併せて最低限の多言語対応を行うべき」が54.3%で最も高く、次いで「やさしい日本語であれば、日本人区民も外国語を学ばずともコミュニケーションしやすくなるので最優先で普及させるべき」が31.0%、「日本語を覚えない人もいるので、多言語対応を最優先で対応すべき」が7.6%となっている。

図表-43 「やさしい日本語」の取組について（全体）



属性別に見ると、「やさしい日本語を優先しながら、併せて最低限の多言語対応を行うべき」は50代で68.2%と最も高くなっている。

図表-44 「やさしい日本語」の取組について（性別・年代別・居住地域別）

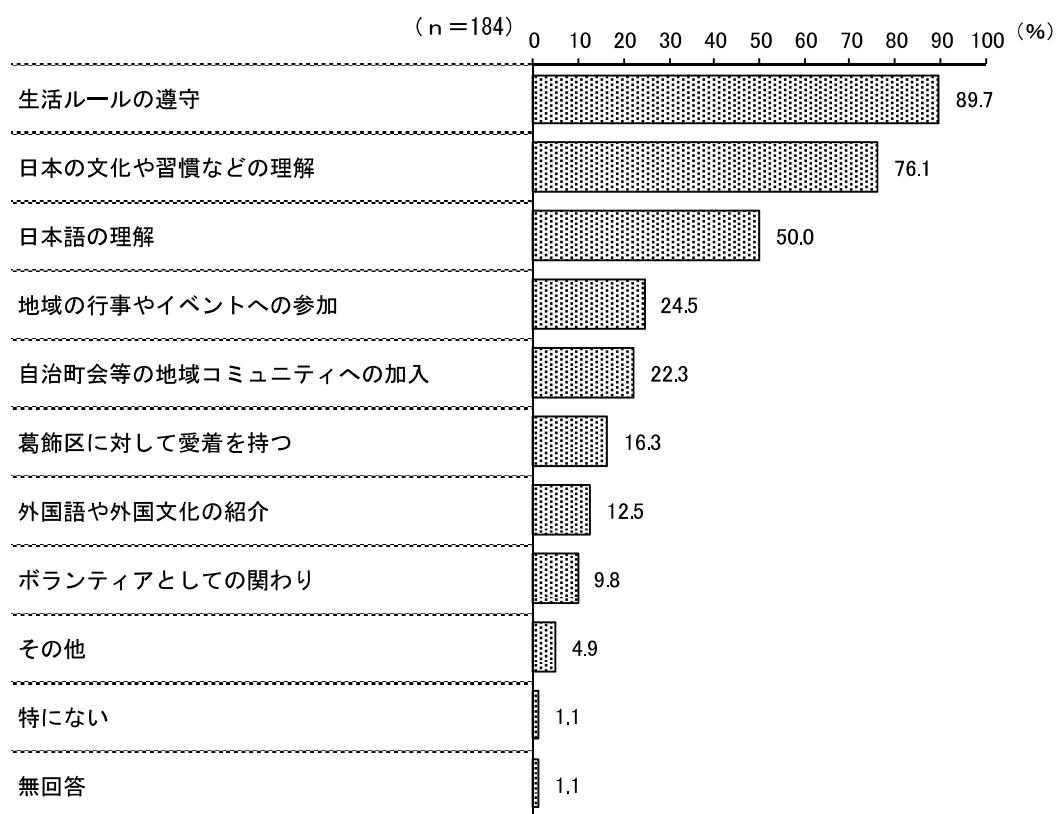


## (10) 外国人に努力してほしいこと

問26 同じ地域で暮らしていくために外国人（区民）に努力してほしいことはありますか（〇はいくつでも）。

外国人に努力してほしいこととしては、「生活ルールの遵守」が89.7%と最も高く、次いで「日本の文化や習慣などの理解」が76.1%、「日本語の理解」が50.0%となっている。

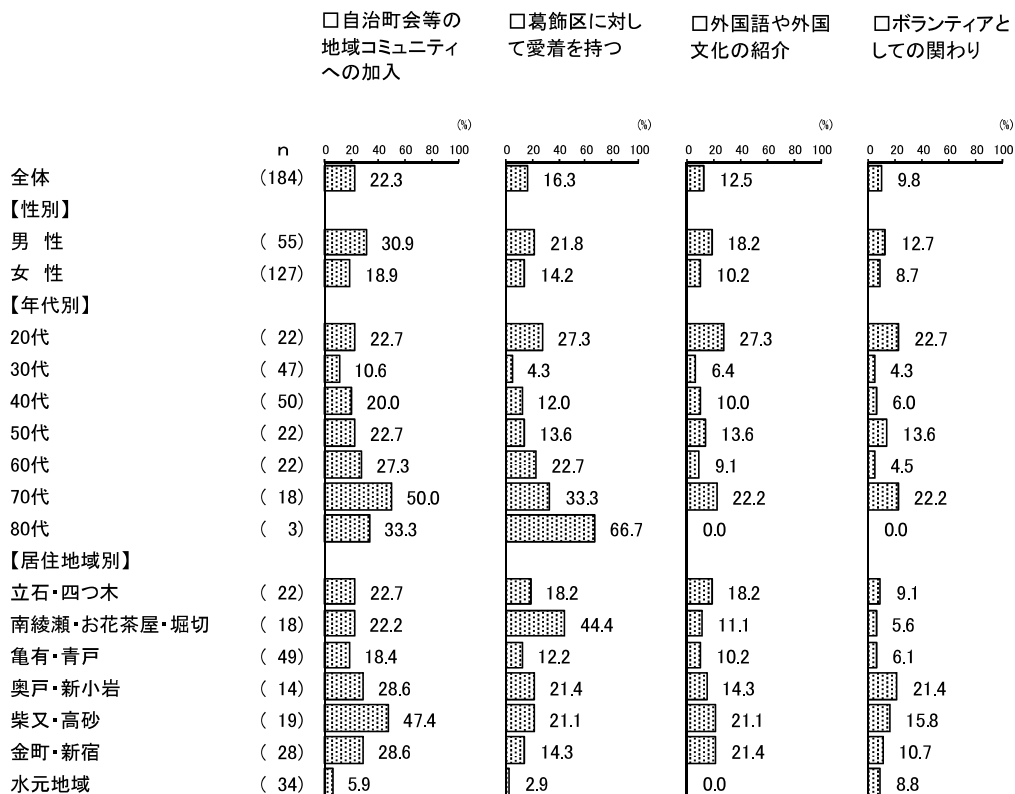
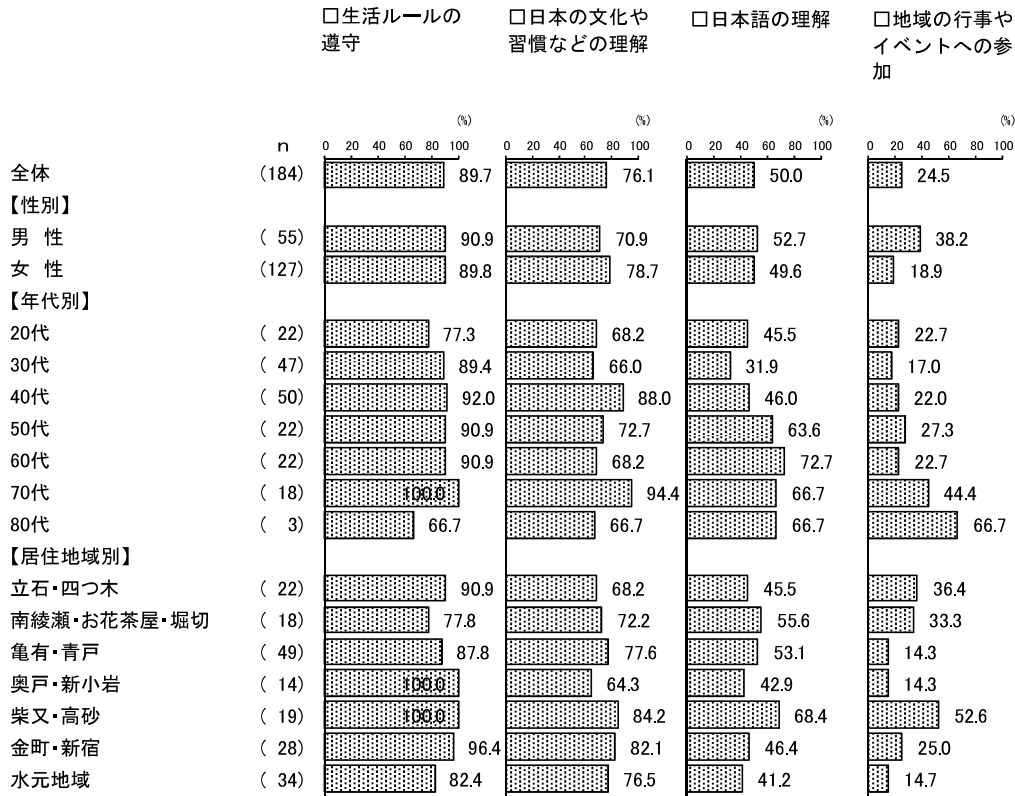
図表-45 外国人に努力してほしいこと（全体）





属性別に見ると、70代で「生活ルールの遵守」が100.0%、「日本の文化や習慣などの理解」が94.4%と、それぞれ最も高くなっている。

図表-46 外国人に努力してほしいこと（性別・年代別・居住地域別—上位8項目）

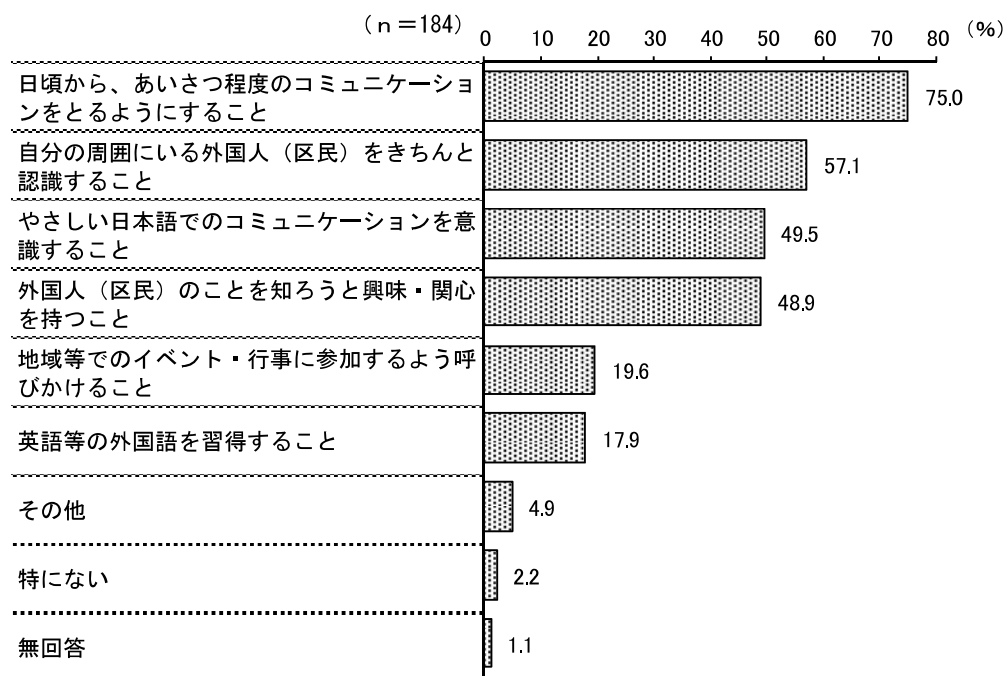


## (11) 日本人が努力・工夫していくべきこと

問27 同じ地域で暮らしていくために日本人区民が努力・工夫していくべきことはありますか（〇はいくつでも）。

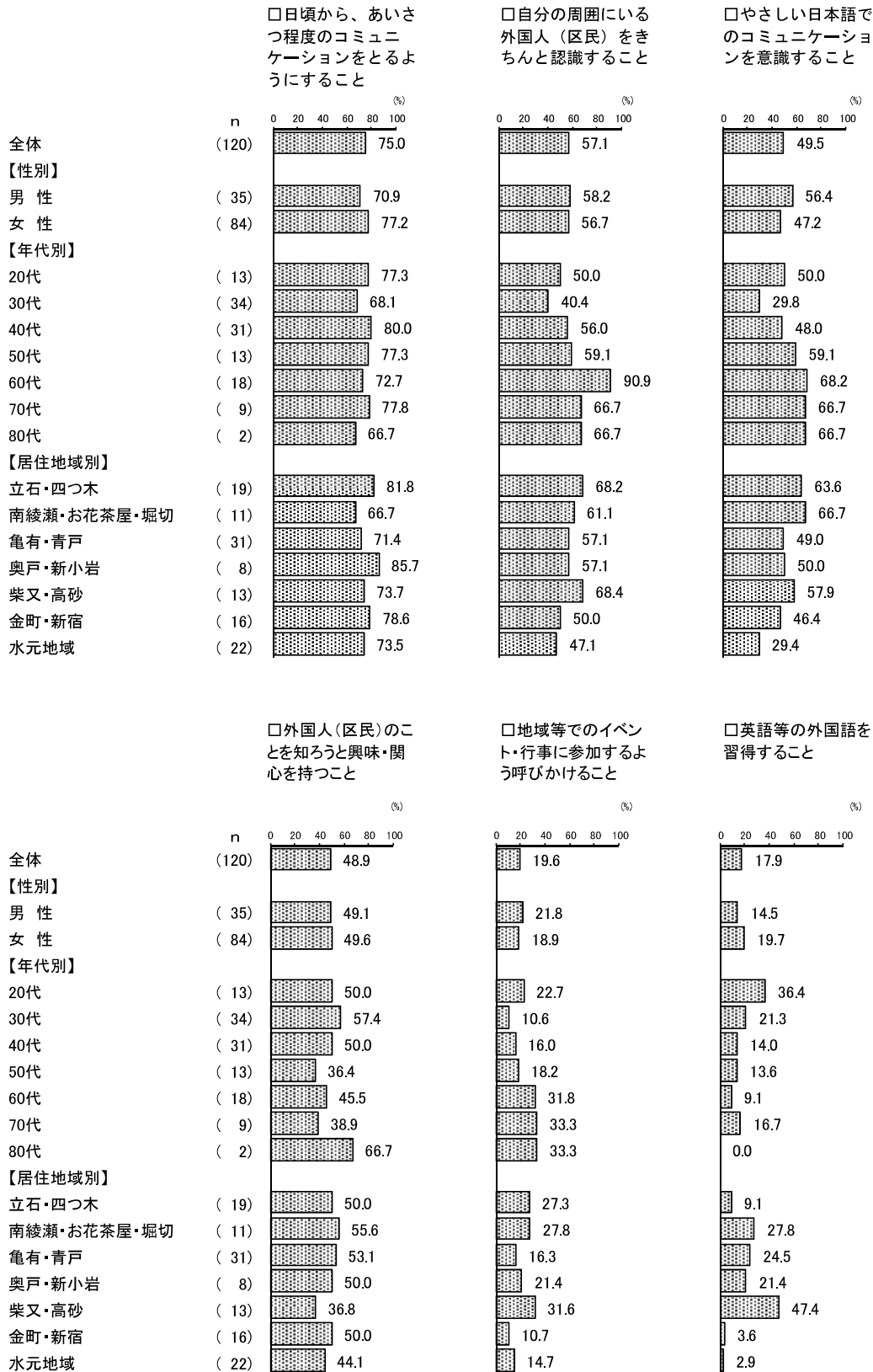
日本人が努力・工夫していくべきことでは、「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」が75.0%と最も高く、次いで「自分の周囲にいる外国人（区民）をきちんと認識すること」が57.1%、「やさしい日本語でのコミュニケーションを意識すること」が49.5%、「外国人（区民）のことを知ろうと興味・関心を持つこと」が48.9%となっている。

図表-47 日本人が努力・工夫していくべきこと（全体）



属性別に見ると、「日頃から、あいさつ程度のコミュニケーションをとるようにすること」は40代で80.0%と最も高く、「自分の周囲にいる外国人（区民）をきちんと認識すること」は60代で90.9%と最も高くなっている。

図表-48 日本人が努力・工夫していくべきこと（性別・年代別・居住地域別—上位6項目）



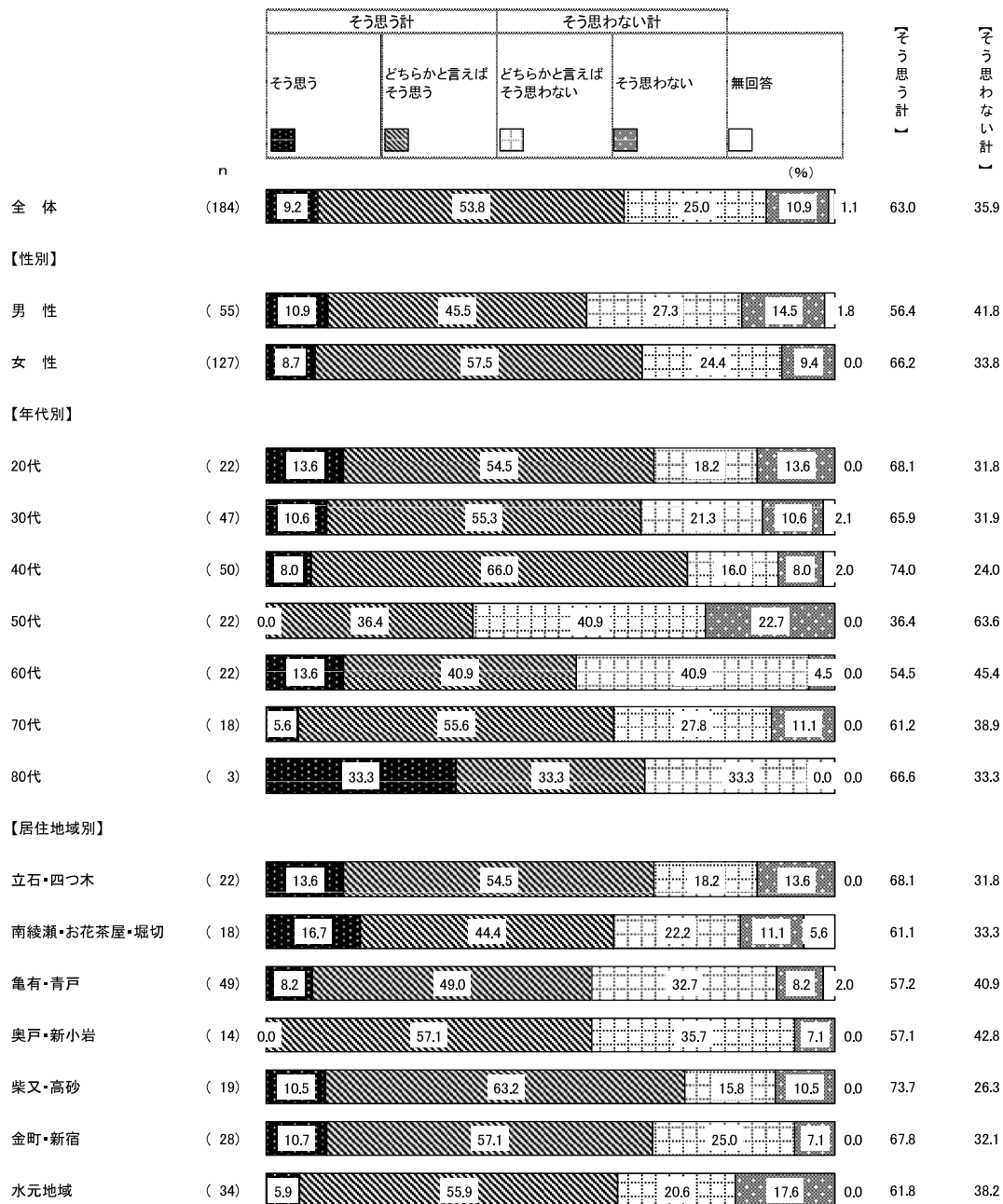
## (12) 葛飾区の多文化共生社会の実感度

**問28** 現在、葛飾区では日本人区民と外国人（区民）が互いに認め合い、暮らしていると思いますか（○は1つ）。

葛飾区の多文化共生社会の実感度について、「そう思う」（9.2%）と「どちらかと言えばそう思う」（53.8%）を合わせた【そう思う計】が63.0%となっている。また、「そう思わない」（10.9%）と「どちらかと言えばそう思わない」（25.0%）を合わせた【そう思わない計】が35.9%となっている。

属性別に見ると、女性の【そう思う計】が男性に比べ高くなっている。また、40代の【そう思う計】が74.0%と最も高くなっている。

図表-49 葛飾区の多文化共生社会の実感度（全体・性別・年代別・居住地域別）

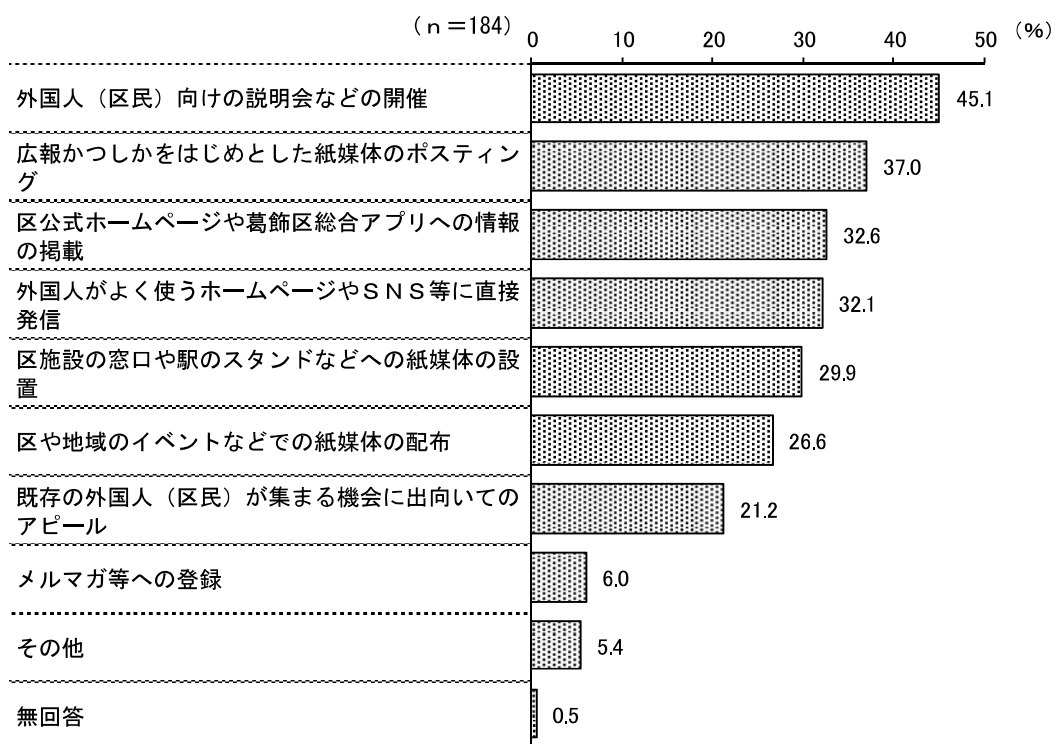


### (13) 外国人に有効な情報提供方法

問29 外国人（区民）に向けた情報提供方法として、有効な手段は何だと思えますか（〇はいくつでも）。

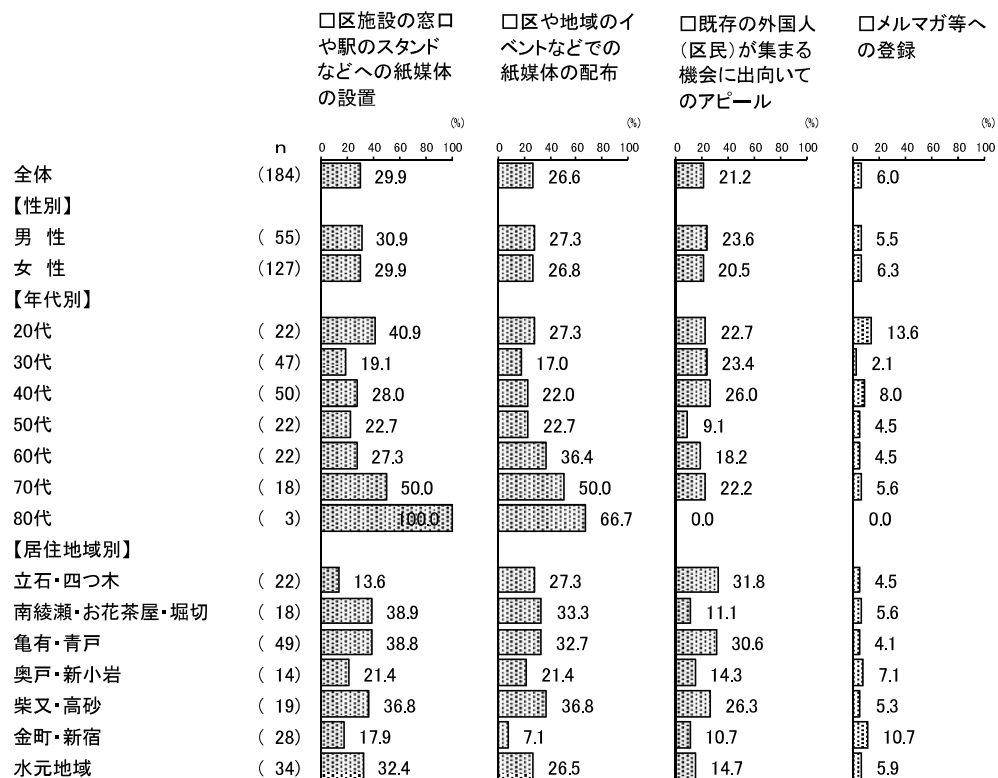
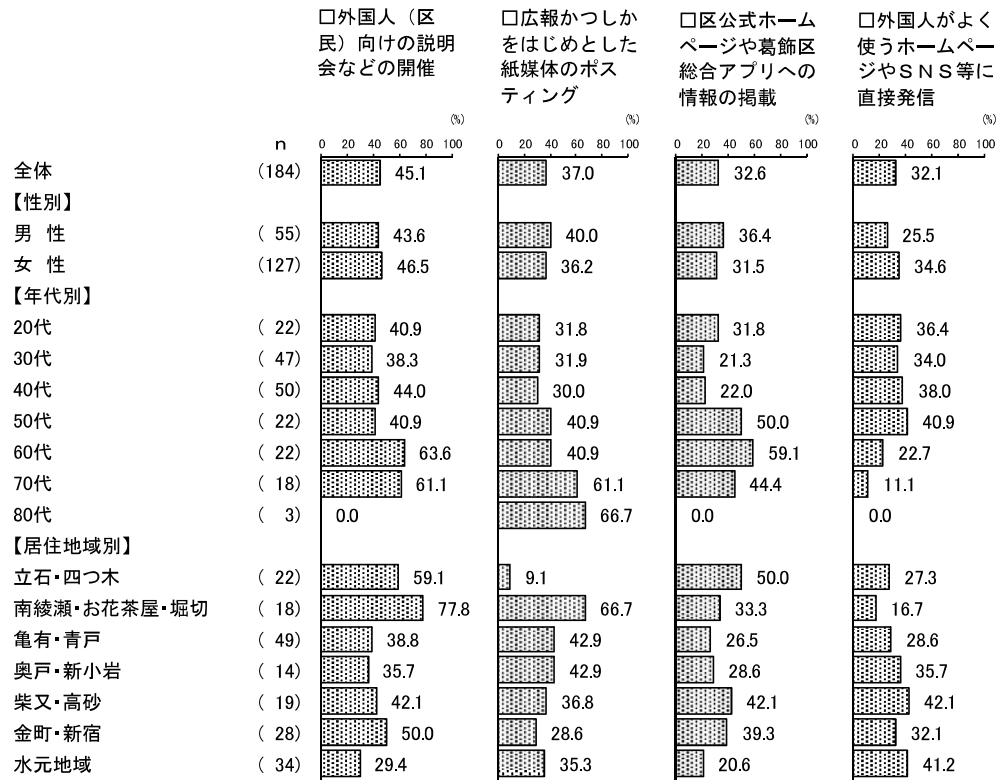
外国人に有効な情報提供方法としては、「外国人（区民）向けの説明会などの開催」が45.1%と最も高く、次いで「広報かつしかをはじめとした紙媒体のポスティング」が37.0%、「区公式ホームページや葛飾区総合アプリへの情報の掲載」が32.6%、「外国人がよく使うホームページやSNS等に直接発信」が32.1%となっている。

図表—50 外国人に有効な情報提供方法（全体）



属性別に見ると、「外国人（区民）向けの説明会などの開催」は60代と70代で60%以上と高くなっている。「広報かつしかをはじめとした紙媒体のポスティング」は70代、80代で60%と高くなっている。

図表-51 外国人に有効な情報提供方法（性別・年代別・居住地域別—上位8項目）



令和元年度 第1回  
葛飾区区民モニターアンケート調査報告書

令和元年（2019年）11月発行

葛飾区総務部すぐやる課すぐやる係  
東京都葛飾区立石5-13-1  
電話 03-3695-1111（代表）